

博士後期課程

登録コード:MA800100		授業科目区分	必修科目
科目名	保健・医療・福祉連携論 Cooperation within Healthcare and Welfare		
担当教員	上村 智子 他 金井 誠, 木村 貞治, 奥村 伸生, 奥野 ひろみ, 濱野 英明		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	博士後期課程共通 / 1年次		前期 土曜, 3時限 土曜, 4時限
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 1 2 講義室		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。		保健・医療・福祉活動における連携の課題と課題解決のモデルを学習する。
	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。		保健・医療・福祉活動における連携の課題と課題解決のモデルを学習する。
授業概要	保健・医療・福祉サービスに関わる様々な組織間や専門職種間で連携が求められる社会的背景を理解し、利用者のライフステージに応じたサービス連携の実践例や課題、ITの活用法や産官学連携の手続きを学習する。また、保健・医療・福祉サービスにおける課題を整理し、解決のための連携モデルを考究し、提案する能力を身につける。		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	人のライフステージに応じた母子保健学領域, 成人保健学領域, 老年保健学領域, 医療生命科学領域における組織間や専門職種間の連携の必要性和具体的な連携モデルの実際, そして, 今後の連携のあり方について俯瞰的に理解する。各領域の連携における実際的な課題とそれを克服するための提案を行うことで, 情報収集能力と分析能力と情報発信能力を育成する。		
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉サービスに関わる様々な組織間や専門職種間で連携が求められる社会的背景について説明できる。 2. 母子保健学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。 3. 成人保健学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。 4. 老年保健学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。 5. 医療生命科学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。特に, 感染症防止のための連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。 6. ITネットワークシステムの活用法について具体例を示して説明できる。 7. 産官学連携の手続きについて説明できる。 8. 保健・医療・福祉サービスの有機的な連携モデルについて意見を述べ, ディスカッションできる。 		
授業計画	<p>第1・2・3回 (4月8日) 保健医療福祉領域における連携の必要性 老年保健学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際 (上村)</p> <p>第4・5回 (4月15日) 成人保健学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際 (木村)</p> <p>第6・7回 (4月22日) 保健医療福祉領域における産官学連携モデル (杉原)</p> <p>第8・9回 (5月6日) 保健医療福祉領域の連携を支えるITの概要と活用 (濱野)</p> <p>第10・11回 (5月13日) 医療生命科学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際 (奥村・長野)</p> <p>第12・13回 (5月27日) 母子保健学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際 (奥野・金井)</p> <p>第14・15回 (6月3日) 保健医療福祉領域における連携モデルの提案(まとめ) (上村)</p> <p>* 4/8だけは2~4時限, 4/15以降は3・4時限。5月20日は授業はありません。</p>		
授業の進め方	授業は、配布資料に基づいて進めます。また、課題レポートを6/3の授業で発表していただき、討議を通じて内容をさらに深めます。課題レポートについては4/8の授業で説明します。		
テキスト, 教材, 参考書	資料を配布します。 参考書は、授業で紹介します。		
成績評価の方法	出席と課題レポートに基づいて、総合的に成績を評価します。課題レポートでは、論理性70%, 発表15%, 討議15%で評価します。遅刻・早退は1回で-2点, 欠席は1回で-4点とします。		
成績評価の基準	出席と課題レポートによる成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点: 秀, 80-89点: 優, 70-79点: 良, 60-69点: 可		
事前事後学習の内容	【事後学習】各自、まとめを作成して、その内容を反映して、課題レポートを作成してください。質問には、メールで対応します。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は、随時受け付け、可能な限り積極的に対応します。 メールでの連絡先は以下の通りです。 上村: tkamimu@shinshu-u.ac.jp 金井: makotok@shinshu-u.ac.jp 奥野: hiromiok@shinshu-u.ac.jp 木村: tkimura@shinshu-u.ac.jp 奥村: nobuoku@shinshu-u.ac.jp 長野: naganon@shinshu-u.ac.jp 濱野: hidehama@shinshu-u.ac.jp 杉原: sugihara@shinshu-u.ac.jp		

科目名	生涯保健学研究法 Research Methods in Lifespan Health Sciences	
担当教員	木村 貞治 他 野見山 哲生, 坂口 けさみ, 伊澤 淳, 相良 淳二, 横川 吉晴	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	博士後期課程共通 / 1年次	前期(後半) 土曜, 3時限 土曜, 4時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 1 2 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	保健学領域における研究法の倫理性と科学性について理解する。
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	保健学領域における自立的な研究法の進め方について理解する。
	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	EBPの概念と具体的な実践方法を理解する。
授業概要	生涯保健学ならびに医療生命科学分野における根拠に基づいた実践 (Evidence-based Practice, EBP) の概要と実際、臨床疫学的研究方法の実際について考究するとともに、人のライフステージに応じた母子保健学領域、成人保健学領域、老年保健学領域における具体的な事例を取り上げ、生涯保健学ならびに医療生命科学分野における研究方法についての幅広い概念と具体的な方法論について考究する。 これらの課程を通して、ライフステージを俯瞰した保健学のあり方を創造的に探求するとともに、各分野における研究の位置づけと独自性ならびに他分野との研究連携を視座に、課題に適した研究方法を選択できる能力を修得する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	人のライフステージに応じた母子保健学領域、成人保健学領域、老年保健学領域、医療生命科学領域におけるEBPの概念に則った質的・量的研究方法の概要と手法についての理解を深める。	
SBOs (行動目標)	1. EBPの概念に則った研究方法の意義と要点について説明できる。 2. 生涯保健学分野、医療生命科学分野における研究方法の特色と要点について説明できる。	
授業計画	第1回 (6月10日) 生涯保健学におけるEBPの概要 (木村貞治) 第2回 (6月17日) 母子保健学領域の研究方法の概要と実際 (坂口けさみ) 第3回 (6月24日) 循環器病の予防に関するガイドラインの実践における課題 PCまたはタブレットを持参してください。(伊澤 淳) 第4回 (7月1日) 老年保健学領域の研究方法の概要と実際 (横川吉晴) 第5回 (7月8日) 生涯保健学と生命倫理 (玉井眞理子) 3・4・5時限 (医学系研究科との合同授業:旭総合研究棟9階講義室A・B) 第6回 (7月15日) 医療生命科学領域の研究方法の概要と実際 (相良淳二) 第7回 (7月22日) 保健学領域における質的研究法の実際 (山崎浩司) 第8回 (7月29日) EBPを実践するための臨床疫学の実践 (野見山哲生) 第9回 (8月5日) 生涯保健学におけるEBP研究の講読 ・パワーポイントを用いたPICOプレゼンテーション (木村貞治)	
授業の進め方	講義、グループワーク、プレゼンテーションを中心に進めていく。最終回(8月5日)には、各自が設定した臨床的疑問 (PICO) に関する文献講読に関する発表を行う。	
テキスト、教材、参考書	資料を配付する。 参考書等については、講義の中で適宜、紹介する。	
成績評価の方法	出席、プレゼンテーション、レポートの内容に基づいて総合的に評価する。	
成績評価の基準	やや不十分だが最低限のEBPの理解に基づいたプレゼンテーションができれば「水準にある(可)」, 基本的なEBPの理解に基づいたプレゼンテーションができれば「やや上にある(良)」, ある程度実践的なEBPに関するプレゼンテーションができれば「かなり上にある(優)」, 先行研究を十分に参照した実践的なEBPに関するプレゼンテーションができれば「卓越している(秀)」と評価します。	
事前事後学習の内容	【事前学習】 各領域のEBPに関連する文献を事前に概観した上で授業に臨むようにしてください。 【事後学習】 授業の中で疑問に感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復習するように取り組んでください。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	臨床場面において、対象者の臨床像に適した臨床判断を 臨床疫学的な研究結果であるエビデンス、臨床家の能力や中立的な経験則、施設の設備や環境、そして、対象者の意向や価値観、を統合して臨床判断を実践していくためのEBPの概念と実践方法について修得し、今後の臨床活動、研究活動に生かせるよう能動学習を進めていってください。 相談への対応: 木村貞治 tkimura@shinshu-u.ac.jp	

登録コード:MA810100		授業科目区分	必修科目
科目名	母子保健学特講 Special Lectures in Child and Women's Health Science		
担当教員	坂口 けさみ 他 市川 元基, 金井 誠, 玉井 真理子, 平林 優子, 池上 俊彦		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1 年次		前期 月曜, 5 時限 月曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 1 2 講義室		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<small>保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。</small> <small>保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。</small>		
授業概要	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖の健康と権利) の概念と歴史的背景をふまえ、女性・子ども・親子あるいは家族を対象として、周産期およびその前後のライフステージにおける健康問題や倫理的問題に加えて、感染免疫や臓器移植など先進医療に関する理解を深めるとともに、看護、医学並びに生命倫理的な視点から母子保健学領域の有する健康問題や健康問題を測定する指標の開発、安心して子どもを産み育てることができる保健・医療・福祉システムに基づく連携プログラムの開発、各種介入法、研究法について論究する。		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	母子保健学領域における最新の保健・医療・福祉並びに生命倫理的な観点から研究課題を幅広く理解するとともに、研究課題を深めていくための研究手法について学ぶ。		
SBOs (行動目標)	1. 母子保健に関する研究課題および倫理的課題について述べるができる。 2. 親と子の絆の形成メカニズムを理解すると共に、根拠に基づいた助産ケアについて述べるができる。 3. 生活習慣病の発生メカニズムと胎児期・新生児期・乳児期の重要性について述べるができる。 4. 産科医不足がもたらす産科医療へ及ぼす影響と地域医療ネットワークの重要性について述べるができる。 5. 生体の感染防御システムである免疫系の役割について述べるができる。 6. 生体肝移植の意義並びに様々な諸問題について理解することができる。		
授業計画	第1回～第3回 (4/10, 17, 24) : (坂口けさみ) 周産期における母性行動・父性行動の発現メカニズムや児に対するスキンシップ、カンガルーケアの意義並びに出産後の女性のライフステージにおける臨床的排泄機能に焦点を当て、その概観を理解するとともに、研究手法を学ぶ。 第4回～第6回 (5/1, 8, 15) : (平林優子) 小児看護学領域における研究を概観するとともに、その研究手法について学ぶ。 第7回～第8回 (5/22, 29) : (市川元基) 小児期における疾患の発症と予防について、成長・発達との関連を免疫学・神経学の観点から理解を深め、新生児期を含めた小児期の健康管理について論究する。 第9回～第10回 (6/5, 12) : (池上俊彦) 胆道閉鎖症や肝移植など、小児期に外科手術を受け成人期を迎えた女性における諸問題について、妊娠・出産の観点を中心に教授する。また男子不妊症の原因の一つである停留睾丸の発症原因と、睾丸下降のメカニズムについて論究する。 第11回～第12回 (6/19, 26) : (金井誠) 最近の産科医不足がもたらす産科医療の問題と、産科医師不足に対する医療連携体制の構築について論究するとともに、早産や妊娠高血圧症候群などハイリスク妊娠に対する疾病管理と重症化予知について学ぶ。 第13回～第15回 (7/3, 10, 24) : (玉井真理子) 歴史的および文化的文脈から性と生殖の健康と権利の概念を多角的に検討しつつ、女性・子ども・家族の生涯にわたる健康問題を概観し、生命倫理的な観点から論究する。 第16回 (7/31) : まとめ		
授業の進め方	講義、演習を中心に進めます。		
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特に指定しないが、適宜、紹介する。 【参考書・参考資料等】 Klaus & Kennell ;Parent-Infant Bonding, Mosby, 1982., 周産期医学：母子相互作用, 13(12), 1983. 玉井真理子, 他; 新生児医療現場の生命倫理, MCメディア出版(2005) など		
成績評価の方法	授業への出席状況並びに課題調査や発表内容、レポート等を総合的に判断して評価する。		
成績評価の基準	課題レポートについては、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルであれば「卓越している」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	授業開始前後に必要な予習と復習を行う。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、対応します。		

科目名	母子保健学演習 A Practice in Child and Women's Health Science A	
担当教員	坂口 けさみ	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1 年次	後期 月曜, 5 時限 月曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	専門職者として独創的な観点から課題を見つけ研究を進めることができる。
	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	エビデンスを導くための研究手法を修得できる。
授業概要	周産期における母子関係・父子関係の形成メカニズムや児へのスキンシップ、カンガルーケア、抱っこなど、こどもへのディベロップメンタルケア並びに女性の排泄機能に関する健康問題を中心に、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、研究課題を精選する。さらに研究課題を実施するのに適した生理学的指標及び分子生物学的指標の選択や、調査・測定・分析方法について論究していく中で、課題に必要な各種条件を整える。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	母子保健学領域に関する研究課題について、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、研究課題を精選するとともに、研究課題を進めるための研究手法や各種条件を整える。	
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に関する原著論文を、邦文、欧文に関わりなく読み解くことができる。 2. 論文講読を通して、主体的に課題を導くことができる。 3. 研究課題を推し進めるに当たり、必要な各種条件を整えることができる。 4. 研究計画書を作成できる。 	
授業計画	<p>日程については、初回時に受講生と話し合い決定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母子関係、父子関係、親子関係に関する諸理論について理解する。(10/2) 2. 母子関係、父子関係、親子関係に関する国内外の論文を講読し、何がどこまで解明されてきているのか、また相互関係をより発展させるためのディベロップメンタルケアについて理解を深めるとともに、1つ1つの研究方法や解釈について批判的に講読を勧める。これらの課程を通して関連領域の課題についても明らかにしていく。 3. 妊娠・分娩に伴う女性の排泄問題について、国内外の文献を講読し、何がどこまで解明されてきているのか、また課題は何かについて明らかにする。 4. 研究課題を推し進めるための研究手法について理解を深めるとともに、関連する研究手法を修得する。 	
授業の進め方	一部講義，一部プレゼンテーションとディスカッションを行いながら進めていきます。	
テキスト，教材，参考書	<p>【テキスト】 適宜，紹介する。</p> <p>【参考書，参考資料等】 J. ポルビー：母子関係の理論 ， ， 岩崎学術出版社(1983) . Klaus & Kennel, Parent-Infant Bonding, Mosby(1982) .</p>	
成績評価の方法	授業への出席状況並びに課題に関する発表内容，レポート等を総合的に判断して評価する。	
成績評価の基準	課題レポートについては，(i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」，(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」，4項目までできていれば「やや上にある」，3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	授業開始前後に必要な予習と復習を行う。	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	いつでも相談に応じます。	

登録コード:MA810500		授業科目区分	選択科目
科目名	母子保健学演習 B Practice in Child and Women's Health Science B		
担当教員	玉井 真理子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1 年次	後期	火曜, 5 時限 火曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。		
授業概要	母子保健学領域を中心に、女性・子ども・家族の健康問題をめぐる生命倫理問題を幅広く捉えて、受講者とともに国内外の重要文献を選定し、それらの内容および背景等を検討する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	生殖補助技術，出生前診断，新生児医療，リプロダクティブ・ヘルス/ライツなど，従来の母子保健学領域で扱われてきた主題にとどまらず，エンハンスメント，ヒト胚利用，遺伝医療，再生医療なども射程に入れ，女性・子ども・家族の健康問題をめぐる生命倫理問題について多様な価値が存在することを認識し，自分なりの見識を養う。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・生殖補助技術，出生前診断，新生児医療，リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念について説明できる。 ・エンハンスメント，ヒト胚利用，遺伝医療，再生医療の概念について説明できる。 ・女性・子ども・家族の健康問題をめぐる生命倫理問題について多様な価値が存在することを認識し，自分なりの見識を持つことができる。 		
授業計画			
授業の進め方	日時は火曜日 5・6 限とは限らず不規則になりますので，授業開始前に個別に問い合わせ願います。		
テキスト，教材，参考書	<p>【テキスト】 指定しない。</p> <p>【参考書・参考資料等】 樋口範雄編『生命倫理と法』，『生命倫理と法』（いずれも弘文堂）</p>		
成績評価の方法	出席状況，授業での発言の状況，最終レポートを総合的に評価する。		
成績評価の基準	自分なりの問題意識をもって考えをまとめているかどうかをポイントにする。		
事前事後学習の内容	社会的な出来事に興味を持って自分なりに学習する。		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問は，メール mtamai@shinshu-u.ac.jp にて受け付ける。 学籍番号と氏名を明記の上で送信すること。 3 日以内に返信がない場合は再送信。		

登録コード:MA810700		授業科目区分	必修科目
科目名	母子保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Child and Women's Health Science		
担当教員	坂口 けさみ		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1 ~ 3 年次 通年 ,不定期		
単位数、講義室	6 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。 研究プロセスに則り、自立して研究成果を論文にまとめ、社会に公表できる。		
授業概要	女性・子ども・親子あるいは家族に関する健康と看護並びに助産を含めた母子保健学領域の中で研究課題を設定し、倫理的配慮に基づいた研究計画書を立案する。また、研究課題を達成するために最も適した信頼性、妥当性、信憑性のある研究方法によるデータ収集と解析を行い、一連の研究成果を論文にまとめる。これらのプロセスを自律してできるように指導する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。研究計画書に従ってデータを収集し分析、科学的論文を作成する。この一連の過程を自律してできる。		
SBOs（行動目標）	以下の過程について主体的に、かつ自立して取り組むことができる。 1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。 2. その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。 3. 研究計画書に従って必要なデータを収集できる。 4. 適切な分析方法を選択できる。 5. 科学的論文を作成できる。		
授業計画	1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定し、研究計画書を立案する。 2. プレテストを実施し、研究計画書の修正を行う。 3. 研究に関する倫理について必要な内容を含めて明確に把握するとともに、信州大学医学部医倫理委員会での研究倫理審査を受ける。 4. 研究計画書に従ってデータを収集する。 5. 収集したデータを分析する。 6. 収集したデータから導かれた結果に基づいて博士論文を完成させる。また、それを発表する。		
授業の進め方	主体的に進めていくこと。		
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 随時、紹介する。 【参考書・参考資料等】 適宜、指示する。		
成績評価の方法	一連の研究プロセスに則ってその過程が自律してできるか、問題が生じた場合にどのように対応して問題の解決にあたったか、さらに一連の研究内容が独創性に富んだものであるか、科学的に進められて論文作成に至っているかを総合的に判断する。		
成績評価の基準	論文について、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して適切な方法を用いてデータ収集し、適切に分析しており、(v) その上で論文にまとめ投稿し、アクセプトしており、かつ、英文レベルにあれば「卓越している」、(i) から(v)の5項目を満たしており、課題の質により、「かなり上にある」、「やや上にある」、「水準にある」。		
事前事後学習の内容	十分に時間をかけて取り組むこと。納得できるまで考えること。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、対応します。		

科目名	母子保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Child and Women's Health Science	
担当教員	玉井 真理子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1～3年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	女性・子ども・家族の健康問題をめぐる生命倫理についての見識を高める。
授業概要	女性・子ども・家族の健康問題をめぐる生命倫理学という大枠の中から、自らの問題意識に基づいて研究課題を設定し、フィールドワークや文献研究などを含む学術的な研究方法論をふまえて、自律的に研究を遂行できる能力を養う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。 ・その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。 ・研究計画書に従ってデータを収集し分析、科学的論文を作成する。 ・この一連の過程を自律してできる。 	
SBOs（行動目標）		
授業計画		
授業の進め方		
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 随時、紹介する。</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜、指示する。</p>	
成績評価の方法	一連の研究プロセスに則ってその過程が自律してできるか、問題が生じた場合にどのように対応して問題の解決にあたったか、さらに一連の研究内容が独創性に富んだものであるか、科学的に進められて論文作成に至っているかを総合的に判断する。	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問は、メール mtamai@shinshu-u.ac.jp にて受け付ける。 学籍番号と氏名を明記の上で送信すること。 3日以内に返信がない場合は再送信。	

科目名	母子保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Child and Women's Health Science	
担当教員	市川 元基	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1～3年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	
	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンス構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	
授業概要	小児保健学に関する研究を自律して遂行し、科学的論文を作成する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。 ・その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。 ・研究計画書に従ってデータを収集し分析、科学的論文を作成することにより、情報収集能力・分析能力を鍛える。 ・この一連の過程を自立してできる。 	
SBOs (行動目標)	<p>以下の過程について主体的に、かつ自立して取り組むことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定できる。 2. その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。 3. 研究計画書に従って必要なデータを収集できる。 4. 適切な分析方法を選択できる。 5. 科学的論文を作成できる。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定し、研究計画書を立案する。 2. プレテストを実施し、研究計画書の修正を行う。 3. 研究に関する倫理について必要な内容を含めて明確に把握するとともに、信州大学医学部医倫理委員会での研究倫理審査を受ける。 4. 研究計画書に従ってデータを収集する。 5. 収集したデータを分析する。 6. 収集したデータから導かれた結果に基づいて博士論文を完成させる。また、それを発表する。 	
授業の進め方	研究に関する討論を適宜行いながら、研究に実施、論文を作成する。	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 随時、紹介する。</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜、指示する。</p>	
成績評価の方法	一連の研究プロセスに則ってその過程が自立してできるか、問題が生じた場合にどのように対応して問題の解決にあたったか、さらに一連の研究内容が独創性に富んだものであるか、科学的に進められて論文作成に至っているかを総合的に判断する。	
成績評価の基準	自立して論文作成ができれば合格とする。	
事前事後学習の内容	論文作成の指導の際、学習内容を伝える。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応		

登録コード:MA810703		授業科目区分	必修科目
科目名	母子保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Child and Women's Health Science		
担当教員	金井 誠		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1～3年次 通年 ,不定期		
単位数、講義室	6単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	産科学に関連する最新論文を検索し、その内容の妥当性を分析する。	
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	高い倫理観と高度な専門知識に基づいた産科学に関連する研究を行い、論文を作成する。	
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	高い倫理観と高度な専門知識に基づいた産科学に関連する研究を行い、論文を作成する。	
授業概要	母体産科合併症、胎児発育不全に関する諸問題を含めた母子保健学領域の中で研究課題を設定し、倫理的配慮に基づいた研究計画書を立案する。 また、研究課題を達成するために最も適した信頼性、妥当性、信憑性のある研究手法によるデータ収集と解析を行い、一連の研究成果を論文にまとめる。 これらのプロセスを自律してできるように指導する。 * 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいる。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の研究の動向を理解するとともに、情報収集能力・分析能力を身につける。 ・独創的な観点から研究課題が設定できる。 ・その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、高度な倫理的配慮を有する研究計画書を作成する。 ・研究計画書に従ってデータを収集し分析、科学的論文を作成し、グローバルな情報発信能力を身につける。 ・この一連の過程を自律してできる。 		
SBOs(行動目標)	<p>以下の過程について主体的に、かつ自立して取り組むことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、的確に情報収集し、その内容を分析する。 2. 独創的な観点から研究課題が設定できる。 3. その課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、高度な倫理的配慮を有する研究計画書を作成する。 4. 研究計画書に従って必要なデータを収集できる。 5. 適切な分析方法を選択できる。 6. 科学的論文を作成し、グローバルな情報発信を行う。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定し、研究計画書を立案する。 2. プレテストを実施し、研究計画書の修正を行う。 3. 研究に関する倫理について必要な内容を含めて明確に把握するとともに、信州大学医学部医倫理委員会での研究倫理審査を受ける。 4. 研究計画書に従ってデータを収集する。 5. 収集したデータを分析する。 6. 収集したデータから導かれた結果に基づいて博士論文を完成させる。 また、それを発表する。 		
授業の進め方	一部講義，一部プレゼンテーションとディスカッションを行いながら進める。		
テキスト，教材，参考書	<p>【テキスト】 随時，紹介する。</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜，指示する。</p>		
成績評価の方法	一連の研究プロセスに則ってその過程が自律してできるか、問題が生じた場合にどのように対応して問題の解決にあたったか、さらに一連の研究内容が独創性に富んだものであるか、科学的に進められて論文作成に至っているかを総合的に判断する。		
成績評価の基準	研究計画書および科学的論文の作成過程と作成物を評価する。 (i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	毎回リーディング課題を課す。授業開始直後にその理解を問う口頭試問を行うので、それに備えて課題をしっかりと読み込んでから授業に臨むこと。		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問は，授業中もしくは終了後にいつでもしてください。 相談などは，金井誠宛にお願い致します。電話は内線3582（外線0263-37-2399）ですが，原則的に連絡はメールでお願い致します。makotok@shinshu-u.ac.jpです。		

登録コード:MA810900	授業科目区分	選択科目
科目名	母子保健学演習 C Practice in Child and Women's Health Science C	
担当教員	市川 元基	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1 年次	後期 月曜, 5 時限 月曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	
授業概要	<p>新生児期, 小児期における保健・医療に関する国内外の文献をテーマを決めて講読する。その中で情報収集能力, 分析能力を養い, 研究課題を決定する。研究課題を遂行して行くために必要な研究方法についても国内外の論文・教科書等を講読し, 研究方法を追求する。</p>	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の原著論文, 総説を読み解くことができる。 2. 論文講読を通して研究課題を決定できる。 3. 研究遂行に必要な知識・技術を得ることができる。 	
SBOs (行動目標)	<p>新生児・小児の保健医療学領域の研究課題を国内外の文献講読を通して決定し, その研究方法に関する知識・技術を得る。</p>	
授業計画	<p>第 1 回 (10月 2 日) 新生児・小児保健医療に関する講義 第 2 回 (10月16日) 新生児・小児保健医療に関する講義 第 3 回 (10月23日) 新生児・小児保健医療に関する講義 第 4 回 (10月30日) 新生児・小児保健医療に関する論文講読 第 5 回 (11月 6 日) 新生児・小児保健医療に関する論文講読 第 6 回 (11月13日) 新生児・小児保健医療に関する論文講読 第 7 回 (11月20日) 新生児・小児保健医療に関する論文講読 第 8 回 (11月27日) 新生児・小児保健医療に関する論文講読 第 9 回 (12月 4 日) 新生児・小児保健医療に関する論文講読 第10回 (12月11日) 新生児・小児保健医療に関する討議 第11回 (12月18日) 新生児・小児保健医療に関する討議 第12回 (12月25日) 新生児・小児保健医療に関する討議 第13回 (1月 9 日) 新生児・小児保健医療に関する討議 第14回 (1月15日) 新生児・小児保健医療に関する討議 第15回 (1月22日) 新生児・小児保健医療に関する討議</p>	
授業の進め方	講義, プレゼンテーション, 討議を行う。	
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 紹介する。	
成績評価の方法	出席, レポート, 討議内容等を総合的に判断して評価する。	
成績評価の基準	<p>プレゼンテーション, 討議に参加する: 「水準にある」, プレゼンテーション, 討議にやや積極的に参加する: 「やや上にある」, プレゼンテーション, 討議に積極的に参加する: 「かなり上にある」, プレゼンテーション, 討議で優れた意見を述べる: 「卓越している」</p>	
事前事後学習の内容	毎回授業の際, 事前事後学習の内容を伝える。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	自ら学ぶ姿勢を期待する。	

登録コード:MA811100		授業科目区分	選択科目
科目名	母子保健学演習 D Practice in Child and Women's Health Science D		
担当教員	金井 誠		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1 年次		後期 火曜, 5 時限 火曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。母子保健学領域に関連する最新論文を検索し、その内容の妥当性を分析する。		
授業概要	<p>周産期における母子保健(特に母体産科合併症、胎児発育不全など)に関する諸問題を中心に、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、研究課題を精選する。さらに研究課題を実施する際に適した研究手法の選択や調査・測定・分析方法について論究していく中で、課題に必要な各種条件を整える。</p> <p>* 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいる。</p>		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	母子保健学領域に関する研究課題について、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、情報収集能力・分析能力を身につけ、研究課題を精選するとともに、研究課題を進めるための研究方法や各種条件を整える。		
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に関する原著論文を、適切に情報収集し、邦文・欧文に関わりなく読み解くことが出来る分析能力を身につける。 2. 論文講読を通して、主体的に課題を導くことができる。 3. 研究課題を推し進めるに当たり、必要な各種条件を整えることができる。 4. 研究計画書を作成できる。 		
授業計画	<p>(10/3, 10, 17, 24, 31, 11/7, 14, 21, 28, 12/5, 12, 19, 26, 1/16, 23)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母体産科合併症、胎児発育不全に関する疫学・発症機序などの理論について理解する。 2. 母体産科合併症、胎児発育不全に関する国内外の論文を講読し、何がどこまで解明されてきているのかについて理解を深めるとともに、1つ1つの研究方法や解釈について批判的に講読を進める。これらの過程を通して関連領域の課題についても明らかにしていく。 3. 研究課題を推し進めるための研究方法について理解を深めるとともに、関連する研究手法を修得する。 		
授業の進め方	一部講義，一部プレゼンテーションとディスカッションを行いながら進める。		
テキスト，教材，参考書	<p>【テキスト】 適宜，紹介する。</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜，紹介する。</p>		
成績評価の方法	授業への出席状況並びに課題に関する発表内容，レポート等を総合的に判断して評価する。		
成績評価の基準	<p>研究計画書および科学的論文の作成過程と作成物を評価する。</p> <p>(i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」，(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」，4項目までできていれば「やや上にある」，3項目までできていれば「水準にある」。</p>		
事前事後学習の内容	毎回リーディング課題を課す。授業開始直後にその理解を問う口頭試問を行うので、それに備えて課題をしっかりと読み込んでから授業に臨むこと。		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	<p>質問は，授業中もしくは終了後にいつでもしてください。</p> <p>相談などは，金井誠宛にお願い致します。電話は内線3582(外線0263-37-2399)ですが，原則的に連絡はメールでお願い致します。makotok@shinshu-u.ac.jpです。</p>		

登録コード:MA820100		授業科目区分	必修科目
科目名	成人保健学特講 Special Lectures in Adult Health Science		
担当教員	木村 貞治 他 松永 保子, 伊澤 淳, 坂口 けさみ, 百瀬 公人, 小林 正義		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1 年次		前期 土曜, 5 時限 土曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		保健学科 2 1 2 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	保健学に関するエビデンスを創出するための研究手法を探索できる。	
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	高度専門医療職者に必要な実践力及び研究力を探索できる。	
授業概要	成人期における心身の健康問題の予防とケアを目的とした保健学の取り組みとその効果について、EBPの観点から考究する。 具体的には、生活習慣病、運動器疾患、内部障害、神経疾患、スポーツ傷害、精神疾患等の予防とケアを目的とした保健学に関するエビデンスを創出するための研究方法や、看護師・保健師等の医療技術者のケアに必要な医療技術の修得・実践・開発方法、及び医療技術者の育成方法・継続教育に関する研究について探求する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	成人期における心身の健康問題の予防とケアを目的とした保健学の取り組みと、EBPの観点に則った研究法のあり方や、医療技術の修得・実践・開発、医療技術者の育成、継続教育等に関する研究法について修得する。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> クライアントの健康問題に対するケアに必要な医療技術の修得・実践・開発や医療技術者の育成に関する方法、および継続教育プログラムについて説明できる。 成人期における運動器疾患、内部障害疾患、神経疾患の予防とケアを目的としたEBPの進め方について具体的に説明できる。 成人期における排泄障害について、最新のトピックスと治療・ケアの動向について説明できる。 ライフサイクルに沿ったメンタルヘルスの課題とその対応について説明できる。 成人期の精神科入院医療における心身のケアについての研究法を説明できる。 		
授業計画	第1回（4月 8日 5時限）：精神科リハビリテーションの理論とモデル（小林正義） 第2回（4月 8日 6時限）：循環器病・生活習慣病の予防に関するガイドラインに学ぶPCまたはタブレットを持参してください。（伊澤 淳） 第3回（4月15日 5時限）：成人期における保健活動の意義と取り組み（木村貞治） 第4回（4月15日 6時限）：成人期における内部障害の評価・治療（百瀬公人） 第5回（5月13日 5時限）：Clinical Reasoning Models in Rehabilitation（Goh Ah Cheng） 第6回（5月13日 6時限）：成人期における精神科入院医療におけるケアと研究法（下里誠二） 第7回（5月20日 5時限）：加齢に伴う女性の排泄機能（坂口けさみ） 第8回（5月20日 6時限）：看護職者および医療従事者の育成に関する教育（松永保子） 第9回（5月27日 5時限）：がん患者に対する保健活動（池上俊彦） 第10回（5月27日 6時限）：課題発表会（木村貞治）		
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 講義 グループワーク プレゼンテーション 		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。		
成績評価の方法	・出席状況、プレゼンテーション、レポートに基づいて総合的に評価する。		
成績評価の基準	最低限の基準でのプレゼンテーションができれば「水準にある（可）」、基本的な内容でのプレゼンテーションができれば「やや上にある（良）」、ある程度の先行研究と自身の仮説を連動させたプレゼンテーションができれば「かなり上にある（優）」、十分な数の先行研究と自身の仮説を連動させたプレゼンテーションができれば「卓越している（秀）」、と評価します。		
事前事後学習の内容	【事前学習】 成人保健の各領域に関連する文献を事前に概観した上で授業に臨むようにしてください。 【事後学習】 授業の中で疑問に感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復習するように取り組んでください。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談等について：木村貞治 tkimura@shinshu-u.ac.jp		

登録コード:MA820300		授業科目区分	選択科目
科目名	成人保健学演習 A Practice in Adult Health Science A		
担当教員	松永 保子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1 年次	後期	月曜, 5 時限 月曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。	保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学院において教育・研究指導を探究できる。	
	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	エビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法や指導方法を探究できる。	
授業概要	成人保健学特講をふまえて、看護師・保健師等の医療技術者がクライアントに対する身体的精神的ケアのために必要な医療技術の修得・実践・開発、クライアント自身が健康生活を確立・維持するための保健行動がとれるような教育・指導ができる医療技術者の育成方法、及び医療技術者の継続教育や健康を支援する制度・システムに関する研究論文等をクリティカルシンキングの観点から講読し、分析・検討する。 また、これらのことを通じて研究課題を見出し、具体的で実践的な研究計画の立案をはかる。		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	成人保健学特講をふまえて、医療技術の修得方法及びクライアントに対する実践が行える医療技術者の育成方法や継続教育、健康を支援する制度・システム等に関する先行研究を概観し、研究課題を見出す。		
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・医療技術の修得方法及び医療技術者の育成方法や継続教育、健康を支援する制度・システム等について説明できる。 ・研究課題を見出すことができる。 ・研究計画の立案ができる。 		
授業計画	<p>第 1 ~ 3 回：クライアントに対するケアのために必要な医療技術の修得・実践方法及び開発等に関する先行研究を講読し、分析・検討する。</p> <p>第 4 ~ 6 回：クライアントへの学習支援や健康教育・保健指導が行える看護師・保健師等の医療技術者の育成方法についての先行研究を講読し、現状を分析・検討する。</p> <p>第 7 ~ 9 回：施設における看護師・保健師等の医療技術者への継続教育に関する先行研究を講読し、分析・検討する。</p> <p>第10~12回：クライアントの健康を支援する制度やシステムに関する先行研究を講読し、分析・検討する。</p> <p>第13~15回：これまでの先行研究についての分析や検討をふまえて、研究課題を見出し計画の立案をはかる。</p> <p>* 実施日時については、後日指示する。</p>		
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・演習 ・ディスカッション 		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。		
成績評価の方法	<p>下記 2 項目を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席 ・レポート 		
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート <p>問題の設定が適切である、その問題の背景を説明できている、その問題にどのような課題があるのかを指摘できている、それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている、そのうえで自分の見解を提示できている、加えるに、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、からの 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」、4 項目までできていれば「やや上にある」、3 項目までできていれば「水準にある」。</p> <p>秀：100~90点、優：89~80点、良：79~70点、可：69~60点</p>		
事前事後学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事前には、事前に指定した文献を読んでおくこと。 ・事後には、講義中に取り上げた文献を読んでおくこと。 		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関連した論文を多読して、研究テーマを決定してほしい。 		

登録コード:MA820500		授業科目区分	選択科目
科目名	成人保健学演習 B Practice in Adult Health Science B		
担当教員	伊澤 淳		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1 年次	後期	火曜, 5 時限 火曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	疾患の病態と予防に関する現状と課題について情報分析ができる。	
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	エビデンスレベルに基づいた医科学の実践ができる。	
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理性と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	現在のガイドラインを理解し、最新の研究から将来の展開を想起できる。	
授業概要	<p>心血管疾患の発症につながる危険因子（高血圧、糖尿病、脂質異常症などの各種生活習慣病）に関して学びます。</p> <p>虚血性心疾患などの動脈硬化性疾患や心不全などの疫学、病態、予後予測因子を学び、診療ガイドラインに基づいた診断と治療、予防法や健康増進に必要な最新の専門知識を教授します。</p> <p>我が国の死因の第2位に位置する心血管疾患の発症および再発予防に関するエビデンスを収集し、臨床研究の読解と解釈、応用方法などについて修得します。</p> <p>長野県健康長寿の要因を探索し、地域の現状と課題を考察します。</p>		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心血管疾患の疫学、病態、発症危険因子、予後規定因子を理解する。 2. 循環器病の診断と治療に関するガイドラインに基づいて、現在の診断基準および治療方針を理解する。 3. 最新の基礎および臨床医学の研究成果を理解し、今後の診療および予防医療への展開を想起する。 		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心血管疾患の疫学、病態、診断基準、治療を理解する。 2. 各種生活習慣病の疫学、病態、診断、治療を理解する。 3. 動脈硬化の疫学、病態、発症危険因子、診断、治療を理解する。 4. 心不全の疫学、病態、重症度診断、治療を理解する。 5. 循環器病の診断と治療に関するガイドラインに基づいた現在の医学知識を得る。 6. 最新の基礎および臨床医学の研究成果を収集し、解釈・応用方法を検討する。 7. 長野県健康長寿に関わる要因を考察し、地域の健康増進に役立つ方策を立案する。 		
授業計画	<p>第1回：メタボリックシンドローム、生活習慣病</p> <p>第2回：高血圧</p> <p>第3回：糖尿病</p> <p>第4回：脂質異常症（高脂血症）</p> <p>第5回：動脈硬化</p> <p>第6回：虚血性心疾患</p> <p>第7回：心不全</p> <p>第8回：こどもの生活習慣病</p> <p>第9回：生活習慣病とその予防、健康増進</p> <p>第10回：成人の生活習慣病研究</p> <p>第11回：青少年の生活習慣病研究</p> <p>第12回：学童・小児の生活習慣病研究</p> <p>第13～15回：まとめ</p>		
授業の進め方	<p>テキスト、プリント、スライドなどにより進めます。</p> <p>講義中の質疑応答を重視します。</p> <p>循環器病の診断と治療に関するガイドラインについて内容を理解し、現状と課題に基づいて最新の医学研究を複数検索してレポートとします。</p>		
テキスト、教材、参考書	<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>循環器病の診断と治療に関するガイドライン（日本循環器学会ほか） http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm</p> <p>欧州心臓病学会ガイドライン http://www.escardio.org/Guidelines</p> <p>米国心臓協会ガイドライン http://professional.heart.org/professional/GuidelinesStatements/</p> <p>わかりやすい内科学：井村裕夫他編（文光堂）（11,000円）</p>		
成績評価の方法	レポート、出席状況、文献検索と読解、講義の質疑応答の内容から評価する。		
成績評価の基準	<p>秀：到達目標水準から見て卓越している。最新の臨床研究の読解と考察に基づき、新たな診療ガイドラインが想起できる。</p> <p>優：到達目標水準よりかなり上にある。臨床研究のエビデンスレベルに従い、予防や診療への応用が立案できる。</p> <p>良：到達目標水準よりやや上にある。現在の診療ガイドラインを理解し、現状と課題を説明できる。</p> <p>可：到達目標水準にある。授業の内容を理解し、現状と課題に基づいた課題設定と考察ができる。</p>		
事前事後学習の内容	授業の前に次回までの予習課題を提示し、予習内容に基づいた討論を設定することがあります。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>内科系疾患の専門的評価能力を高め、より専門性の高い実践を遂行するために、生活習慣病、各種循環器疾患に関する疫学、病態、診断、治療法を幅広く学び、予防や健康増進に必要な最新の専門知識を具体的データに基づいて教授します。</p> <p>日進月歩の医学のトピックスを紹介し、学生諸君の夢を広げるような講義を行いたいと考えています。</p>		

登録コード:MA820700	授業科目区分	選択科目
科目名	成人保健学演習 C Practice in Adult Health Science C	
担当教員	百瀬 公人 他 木村 貞治, GOH AH CHENG, 速水 達也, 廣野 準一	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1 年次	後期 水曜, 5 時限 水曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	関連研究論文の講読を通して科学研究に対する理解を身につける。
	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。	プレゼンテーションを通して科学研究の発表の方法を身につける。
	保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。	批判的吟味をお互いが行うことにより教育・研究指導方法を身につける。
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	研究論文の討論を通して、研究課題を具体的に見つけることを身につける。
保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	研究論文の討論から、根拠を理解し、根拠に基づく実践を達成する方法を身につける。	
授業概要	授業では、成人期における運動器疾患、スポーツ傷害、神経疾患の評価・治療に関連した講義、臨床試験や系統的総説などの研究論文の講読、批判的吟味を中心としたプレゼンテーション、討論を通じて、EBPの概念に則った研究法の具体的な進め方について考究する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	EBPの概念に則った研究論文の講読とプレゼンテーションを通して、成人期における運動器疾患、スポーツ傷害、神経疾患、内部障害に対する評価、臨床推論、臨床判断、治療に関する科学的妥当性のある研究計画の立案方法を修得する。	
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> 成人期における運動器疾患、スポーツ傷害、神経疾患、内部障害などによる異常な運動の原因を説明できる。 運動器疾患、スポーツ傷害の評価ができ、臨床推論が行える。 成人期における運動器疾患、内部障害疾患、神経疾患の予防とケアを目的としたEBPTの研究を実施できる。 上記の目標達成のための必要な情報収集能力を得る。 上記の目標達成のための必要な分析能力を得る。 上記の目標達成のための必要な情報発信能力を得る。 	
授業計画	第1回 (10月4日) 正常な身体運動の基礎理解とその評価 (百瀬公人) 第2回 (10月11日) 異常な身体運動の基礎理解とその評価 (百瀬公人) 第3回 (10月18日) 脳血管障害患者の異常動作の原因と治療 (百瀬公人) 第4回 (10月25日) 運動器疾患の評価法: 上肢・下肢・体幹 (Goh Ah Cheng) 第5回 (11月1日) 運動器疾患の臨床推論 (Goh Ah Cheng) 第6回 (11月8日) 運動器疾患の臨床判断モデル (Goh Ah Cheng) 第7回 (11月15日) スポーツ傷害の評価と治療 (木村貞治) 第8回 (11月22日) EBPの概念に則った研究法の進め方 (木村貞治) 第9回 (11月29日) EBPの概念に則った研究論文の講読会 (木村貞治) 第10回 (12月6日) EBPに則ったトッパースリート支援 (速水達也) 第11回 (12月13日) 身体運動の神経生理学的評価手法の基礎と応用 (速水達也) 第12回 (12月20日) 神経生理学的手法を用いた理学療法の可能性 (速水達也) 第13回 (1月10日) スポーツ傷害調査の方法 (廣野準一) 第14回 (1月17日) スポーツ傷害予防のためのメディカルチェック (廣野準一) 第15回 (1月24日) スポーツにおける体力の測定・評価法 (廣野準一)	
授業の進め方	講義, グループワーク, 討論	
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 指示する。	
成績評価の方法	出席10%, プレゼンテーションの内容45%, 口頭試問45%	
成績評価の基準	秀: 授業の達成目標水準から見て卓越している。複雑な応用問題を討論できる。 優: 授業の達成目標水準よりかなり上にある。簡単な応用問題が討論できる。 良: 授業の達成目標水準よりやや上にある。応用知識がある。 可: 授業の達成目標水準にある。基礎知識がある。 不可: 授業の達成目標水準より下にある。	
事前事後学習の内容	一単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するため、自主学習時間は次のようになる。 週1回の授業で2単位の授業 (90時間の学修が必要) 授業時間60時間 (4時間×15回), 自主学習時間30時間 (2時間×15回) 事前事後の学習内容は、講義課題について事前に自習し、授業での討論に備えてください。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	メールにてお問い合わせください。kmomose@shinshu-u.ac.jp	

登録コード:MA820900		授業科目区分	選択科目
科目名	成人保健学演習 D Practice in Adult Health Science D		
担当教員	小林 正義		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1 年次	後期	木曜, 5 時限 木曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において、高い倫理性と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。</p> <p>保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。</p>		
授業概要	早期介入，退院促進，家族支援，地域移行・参加支援，就労支援など，精神保健医療福祉領域の先行研究を調査し，エビデンスを集約する。調査結果をもとに精神・認知機能障害をもつ人達に対する支援プログラムと利用者アウトカムを作成し，介入効果を検証する研究計画を作成する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	精神保健医療福祉領域における支援プログラムと効果測定に用いる評価ツール等を作成し，プログラムによる治療効果や，作成した評価法の信頼性・妥当性を検証する臨床研究の実践能力を開発する。		
SBOs（行動目標）	テーマに沿った系統的な文献レビューを実施し情報収集・分析能力を高める。精神保健医療福祉領域の支援プログラムや，効果測定に有効な評価ツール等を作成し，これらを検証する研究計画を作成する。プレゼンテーションの演習を行い情報発信能力を高める。		
授業計画	第1回（9月28日）研究テーマの検討と文献レビュー 第2回（10月5日）研究テーマの検討と文献レビュー 第3回（10月12日）研究テーマの検討と文献レビュー 第4回（10月19日）研究テーマの検討と文献レビュー 第5回（10月26日）支援プログラム・アウトカムメジャー計画 第6回（11月2日）支援プログラム・アウトカムメジャー計画 第7回（11月9日）支援プログラム・アウトカムメジャー計画 第8回（11月16日）支援プログラム・アウトカムメジャー計画 第9回（11月30日）プログラム・評価法の演習（予備調査，BACS-J，他） 第10回（12月7日）プログラム・評価法の演習（予備調査，BACS-J，他） 第11回（12月14日）プログラム・評価法の演習（予備調査，BACS-J，他） 第12回（12月21日）プログラム・評価法の演習（予備調査，BACS-J，他） 第13回（1月11日）研究デザイン・研究計画・倫理審査申請書の作成 第14回（1月18日）研究デザイン・研究計画・倫理審査申請書の作成 第15回（1月25日）研究デザイン・研究計画・倫理審査申請書の作成		
授業の進め方	講義，演習		
テキスト，教材，参考書	【テキスト】 授業の中で参考図書を紹介します。 【参考書・参考資料等】 授業の中で配布・適宜紹介します。		
成績評価の方法	文献調査とエビデンスの吟味，作成する介入プログラムの妥当性・実用性，研究計画の具体性等を評価します。		
成績評価の基準	系統的な文献レビューができれば「水準にある(可)」，加えて介入プログラムの妥当性と倫理的配慮を説明できれば「やや上にある(良)」，効果測定に用いる評価指標を選択または作成できれば「かなり上にある(優)」，先行研究と自身の研究疑問・仮説を連動させた研究計画書が作成できれば「卓越している(秀)」と評価します。		
事前事後学習の内容	【事前学習】 精神保健領域の課題を事前に把握して授業に臨んでください。 【事後学習】 最新の論文を参照し，学習内容と照らして理解を深めてください。		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	直接，またはEメールにて対応します。 mkobaya@shinshu-u.ac.jp		

登録コード:MA821000		授業科目区分	選択科目
科目名	成人保健学演習 E Practice in Adult Health Science E		
担当教員	池上 俊彦		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1 年次	後期	金曜, 5 時限 金曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	専門職としての立場から研究課題を見出すことができる。	
授業概要	移植外科領域に関連した病因、病態、周術期管理、予後等に関する諸問題を中心に国内外の文献を検索・蒐集・精読し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。それを通じ、対象文献の信頼性、妥当性の検討法、データの分析法等について学ぶとともに、研究課題の設定に向けての絞り込みを行う。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1. 国内外の研究の動向を理解することができる。 2. 情報収集能力、分析能力を身につけることができる。 3. 発表、討論能力を養うことができる。		
SBOs（行動目標）	以下の目標に向けて主体的かつ自律的に取り組む。 1. 国内外の研究の動向を理解するため、国内外の文献を検索し蒐集する。 2. 対象文献の信頼性、妥当性について検討する。 3. 対象文献で用いられている分析法について理解する。 4. 研究計画書作成に向けての研究課題の絞り込みを行う。		
授業計画	1. 演習 E 全般のガイダンスと興味ある分野・研究内容のヒアリングとディスカッション 2. 興味ある分野・研究内容に関する既知の知識の整理と関連文献の紹介 3. 文献の収集と購読ならびに内容の理解 4. 収集文献のプレゼンテーションとディスカッション 5. 研究課題絞り込みに向けての研究手法の習得 (開講日時は、相談の上決定する。)		
授業の進め方	プレゼンテーションとディスカッションならびに講義を交えて進める。		
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 指定しない。 【参考書・参考資料等】 研究課題の内容により適宜、紹介する。		
成績評価の方法	演習への参加状況、発表・討論における理解、レポート等を総合的に判断して評価する。		
成績評価の基準	1. ヒアリングとディスカッション（20点） 2. 興味ある分野・研究内容に関する既知の知識の整理と関連文献の紹介（20点） 3. 文献の収集と購読ならびに内容の理解（20点） 4. 収集文献のプレゼンテーションとディスカッション（20点） 5. 研究課題絞り込みに向けての研究手法の習得（20点） として評価する。		
事前事後学習の内容	興味ある内容により、その都度テーマを出していく。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談には、随時、対応します。 池上研究室： tikegami@shinshu-u.ac.jp		

科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science	
担当教員	松永 保子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1～3年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	高度専門医療職者に必要な実践力及び研究力を探求できる。
	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	エビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法や指導方法を探究できる。
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定，研究計画の立案，調査・研究の遂行，論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。 看護師・保健師等の医療技術者がクライアントに対してケアを実施するための効果的な医療技術の修得方法や実践方法の開発，クライアント自身が健康生活のための保健行動がとれるように教育・指導ができる看護師・保健師等の医療技術者の育成方法の開発に関する実践研究を行い，研究成果を博士論文としてまとめる。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	医療技術者がクライアントに対してケアを実施するための効果的な医療技術の修得方法や実践方法の開発や，医療技術者の育成方法の開発に関連する研究計画の立案，研究の実施，博士論文作成という一連の過程を通して，成人期における保健学研究法 の概念と手法を修得する。	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを設定できる。 ・適切な研究方法を選択して研究計画書が作成できる。 ・倫理委員会提出用の書類が作成できる。 ・データの収集ができる。 ・データの分析ができる。 ・研究論文を作成することができる。 ・研究成果のプレゼンテーションができる。 	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究テーマの設定 ・研究計画の立案 ・研究計画書の作成 ・倫理委員会提出用書類の作成 ・調査・実験の実施 ・研究データの収集およびその処理 ・博士論文の作成 ・研究成果のプレゼンテーション <p>* 実施日時については，後日指示する。</p>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション ・プレゼンテーション 	
テキスト，教材，参考書	適宜，指示する。	
成績評価の方法	<p>下記6項目を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・研究への取り組み ・ディスカッションの内容および貢献度 ・博士論文作成状況 ・プレゼンテーションの内容 ・博士論文 	
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・博士論文 <p>研究テーマの設定が適切である，研究テーマの背景を説明できている，研究テーマにどのような課題があるのかを指摘できている，それらの課題に対して，計画立案，計画書の作成ができている，倫理委員会提出用書類の作成ができている，研究データの収集およびその処理ができている，博士論文の作成ができている，研究成果のプレゼンテーションができている，加えるに，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」，からの8項目を満たしていれば「かなり上にある」，7項目までできていれば「やや上にある」，6項目までできていれば「水準にある」。</p> <p>秀：100～90点、優：89～80点、良：79～70点、可：69～60点</p>	
事前事後学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後ともに，研究テーマに関連した文献を多読すること。 ・プレゼンテーションの方法を学習すること。 ・博士論文を作成すること。 	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	早めに研究テーマを決めて，博士論文の作成に取り組んでほしい。	

登録コード:MA821101		授業科目区分	必修科目
科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science		
担当教員	伊澤 淳		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1～3年次		通年 ,不定期
単位数、講義室	6単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。		疾患の病態と予防に関する現状と課題について情報分析できる。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。		エビデンスレベルに基づいた医科学が実践できる。
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。		現在のガイドラインを理解し、最新の研究から将来の展開を想起できる。
授業概要	<p>成人保健学領域における研究課題の設定、研究計画の立案、データ解析、学会および論文発表という研究活動を推進する。</p> <p>特に、心血管疾患の発症危険因子である生活習慣病、動脈硬化性疾患や心不全等に焦点を定め、発症予防および再発予防に繋がる研究を目指す。</p> <p>現在のガイドラインによるエビデンスレベルに基づいた実践とともに、心血管疾患の予防を目指した将来のガイドラインに繋がる提言を目指す。</p>		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	成人保健学領域、特に心血管疾患の発症や再発の予防に焦点を定め、研究計画の立案、研究の推進、研究成果の発表により、医科学のエビデンスの構築に貢献する。		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人保健学領域の疾患に関する現状と課題を列挙する。 2. 心血管疾患の発症危険因子となる病態の現状と課題を探索する。 3. 心血管疾患の発症および再発予防（一次および二次予防）に関する情報を分析する。 4. 自らの課題に関する最新の基礎および臨床研究の成果を探索する。 5. 研究テーマ・仮説および対象を設定し、研究方法を立案する。 6. 得られた研究結果から、追加すべき解析や検討を想起する。 7. 考察と結論をまとめ、研究を総括する。 8. 研究成果を学会および論文により発表し、市民公開講座等により一般に公開する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献読解により現状と課題を理解し、仮説に基づいて研究計画を立案する。 2. 研究計画に従って最新の医学研究の手法を修得する。 3. 研究テーマ・仮説および対象について討論する。 4. 研究を推進し、結果の評価、考察をまとめる。 5. 論文執筆および研究成果のプレゼンテーション 		
授業の進め方	個別指導を中心として、課題設定（仮説）、データ解析、文献検索と読解、考察、総括、研究発表に至るまでの医学研究を指導します。		
テキスト、教材、参考書	<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>循環器病の診断と治療に関するガイドライン（日本循環器学会ほか） http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm</p> <p>欧州心臓病学会ガイドライン http://www.escardio.org/Guidelines</p> <p>米国心臓協会ガイドライン http://professional.heart.org/professional/GuidelinesStatements/</p> <p>わかりやすい内科学：井村裕夫他編（文光堂）（11,000円）</p>		
成績評価の方法	個別指導における質疑応答、課題設定や仮説と検証、総括、学会抄録および論文の執筆、発表に至る研究成果を評価します。		
成績評価の基準	<p>秀：到達目標水準から見て卓越している。最新の臨床研究および研究成果に基づき、新たな診療ガイドラインが想起できる。</p> <p>優：到達目標水準よりかなり上にある。自らの研究成果に基づいて、予防や診療の実践に対して新たな提言ができる。</p> <p>良：到達目標水準よりやや上にある。研究の成果と限界から次の課題を探索し、新たな研究が展開できる。</p> <p>可：到達目標水準にある。研究成果に矛盾しない考察および結論をまとめ研究発表ができる。</p>		
事前事後学習の内容	個別指導の際には進捗を報告し、次への課題を設定して後日討論します。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、個別に対応します。		

登録コード:MA821102	授業科目区分	必修科目
科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science	
担当教員	木村 貞治	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1～3年次 通年 ,不定期	
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 学術情報の収集・分析を通して信頼性・妥当性のある研究活動を展開できる。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。 倫理的・科学的に妥当性のある理学療法学研究を計画・実践できる。</p> <p>保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。 安全で効果な理学療法の実践に寄与できる質の高い研究成果を世界に向けて発信できる。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、体系的・専門的立場から課題を究げ、自立的な研究を行うことができる。 エビデンスの実践的活用と構築の両面から自立的に取り組むことができる。</p> <p>保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。 信頼性・妥当性のある研究方法を保健医療専門職者に指導できる。</p>	
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定、研究計画の立案、調査・研究の遂行、論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。成人期における運動器疾患、スポーツ傷害に関連したEBPの概念に則った実践研究を行い、研究成果を博士論文としてまとめる。研究課題としては、運動制御、運動学習の視点から運動と健康との関連性に視座を据え、EBPの実践のために必要となるエビデンスの構築に繋がるような研究の展開を目指す。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	成人保健学領域に関連する研究計画の立案、研究の実施、博士論文作成という一連の過程を通して、成人期における保健学研究法との概念と手法を修得する。	
SBOs (行動目標)	研究課題の設定、研究計画の立案と遂行、博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究計画の立案 2. 調査・実験の実施 3. データ処理 4. 博士論文の作成 5. 研究成果のプレゼンテーション 	
授業の進め方	個別およびグループでの研究ミーティングに基づいて一連の研究活動を展開する。	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 資料を配布する。</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜、指示する。</p>	
成績評価の方法	研究への取り組み状況および学位論文の内容	
成績評価の基準	<p>研究課題の設定、研究計画の立案・計画書作成、倫理審査、研究準備・実施、研究成果の発表と論文作成の取り組み状況および内容に基づいて、下記の基準で行います。</p> <p>秀：十分に信頼性・妥当性があり、独創性のある研究活動を行うことができる。</p> <p>優：概ね信頼性・妥当性のある研究活動を行うことができる。</p> <p>良：基本的なレベルの信頼性・妥当性での研究活動を行うことができる。</p> <p>可：最低限のレベルの信頼性・妥当性での研究活動を行うことができる。</p>	
事前事後学習の内容	<p>【事前・事後学習】 自身のテーマに関連する先行研究を収集、批判的吟味、要約し、先行研究でどこまで分かっている、どのような点がまだ不明な点なのか、そして、自身の研究がどのような事柄を明らかにしようとしているのか、また、信頼性・妥当性のある研究を展開するためにどのような点に配慮していくのかという点について、ゼミの前後で能動的に整理していくようにしてください。</p> <p>また、早い段階から、英文論文作成に向けての構文データベースを構築していくように努めていってください。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	相談への対応：木村貞治 tkimura@shinshu-u.ac.jp	

登録コード:MA821103		授業科目区分	必修科目
科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science		
担当教員	百瀬 公人		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1～3年次 通年 ,不定期		
単位数、講義室	6 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>医学、保健学および関連科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。</p> <p>保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、活発的・専門的立場から課題を見つけ、自主的な研究を行うことができる。</p> <p>保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための高い臨床研究方法を指導できる。</p>		
国際学会および国際誌に発表することを通して身につける。	研究を具体的に進める過程に於て身につける。		保健学の学問体系の発展に寄与できるテーマを見つけ発表することによって身につける。
学会および雑誌に発表を何度も行うことによって身につける。	研究を進める過程の討論を通して身につける。		研究計画の立案、調査、実施、論理的にまとめることなどを通して身につける。
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定、研究計画の立案、調査・研究の遂行、論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導・討論のもとで行う。 脳血管障害や肩関節疾患などの臨床研究あるいは臨床に密接に関連した起立・歩行などの運動学に関する基礎研究を通して、臨床に科学的根拠を還元できる研究成果を博士論文としてまとめる。		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	成人保健学領域に関連する研究計画の立案、研究の実施、博士論文作成という一連の過程を通して、成人期における保健学研究法 の概念と手法を修得する。 情報収集能力を高め、疾患の病態を解剖生理学的情報、その治療に関する情報を集約するとともに、分析能力を高め集めた情報を整理し、新たな治療法の考え方を構築する。 また、グローバルな情報発信能力を高めることにより得られた研究成果を発表する。		
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画を立案できる。 研究に必要な論文を収集し、研究目的を明らかにすることができる。具体的研究方法を実施、改善できる。 統計学的処理が実施できる。 論理的考察が実施できる。 関係学会あるいは雑誌に発表できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究計画の立案 調査・実験の実施 データ処理 博士論文の作成 投稿 研究成果のプレゼンテーション 		
授業の進め方	個別指導		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。		
成績評価の方法	学位論文 (100%)		
成績評価の基準	<p>秀： 授業の達成目標水準から見て卓越している。高度な論文を作成でき、深い討論ができる。</p> <p>優： 授業の達成目標水準よりかなり上にある。高度な論文を作成でき、討論できる。</p> <p>良： 授業の達成目標水準よりやや上にある。論文が作成でき、討論できる。</p> <p>可： 授業の達成目標水準にある。論文が書ける。</p> <p>不可： 授業の達成目標水準より下にある。</p>		
事前事後学習の内容	<p>一単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するため、自主学習時間は次のようになる。</p> <p>週1回の授業で6単位の授業(270時間の学修が必要)</p> <p>授業時間60時間(2時間×30回)、自主学習時間210時間(2時間×105回)論文作成は年間通して行われるため、また自主学習は週1回とは限らないので、適時自分の配分で準備を進めてください。関連論文の収集と読み込み、研究計画の立案、倫理審査会への申請、データ収集、統計解析、学会発表および論文作成の準備を上記の時間で行うこととなります。</p>		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	メールにてお問い合わせください。 kmomose@shinshu-u.ac.jp		

登録コード:MA821104		授業科目区分	必修科目
科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science		
担当教員	小林 正義		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1 ~ 3 年次		通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。</p> <p>保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。</p>		
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定，研究計画の立案，調査・研究の遂行，論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。成人期の精神保健医療福祉に関連する最新知見をレビューし，成人保健学演習Dで作成した研究計画をもとに臨床研究を行う。研究成果を博士論文にまとめ専門誌に投稿する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	文献レビュー，研究計画の立案，研究の実施，論文作成という一連の過程を通して，成人保健学研究の概念と手法を習得する。		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> 1.精神保健医療福祉領域の学会で研究成果を発表する。 2.原著論文（英語）を作成する。 3.論文を投稿する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統的な文献レビューに基づいた研究計画の立案 2. 調査・実験の実施 3. データ収集 4. データ解析 5. 博士論文の作成 6. 研究成果のプレゼンテーション 7. 論文投稿 		
授業の進め方	個別指導		
テキスト，教材，参考書	APA（江藤，他 訳）：APA論文作成マニュアル，医学書院，2008 その他，適宜，紹介する。		
成績評価の方法	研究への取り組み，学位論文，プレゼンテーション		
成績評価の基準	研究計画を実行できれば「水準にある(可)」，加えて正確なデータ分析ができれば「やや上にある(良)」，結果に基づき研究成果を口頭発表できれば「かなり上にある(優)」，論理的な英文論文が執筆できれば「卓越している(秀)」と評価します。		
事前事後学習の内容	<p>【事前学習】 精神保健領域の課題を事前に把握して授業に臨んでください。</p> <p>【事後学習】 最新の論文を参照し，学習内容と照らして理解を深めてください。</p>		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	日程は，個別に相談のうえ調整します。連絡先：0263-37-2403，mkobaya@shinshu-u.ac.jp		

科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science
担当教員	GOH AH CHENG
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1～3年次 通年 ,不定期
単位数、講義室	6単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定，研究計画の立案，調査・研究の遂行，論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。スポーツ傷害や整形外科的疾患に関する理学療法の効果について研究を行う。具体的には，物理療法，運動療法，動作分析，徒手療法などの理学療法アプローチの理論を基礎科学的な視点から検証することを目的とした研究を展開し，研究成果を博士論文としてまとめる。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	成人保健学領域に関連する研究計画の立案，研究の実施，博士論文作成という一連の過程を通して，成人期における保健学研究法概念と手法を修得する。
SBOs（行動目標）	
授業計画	1．文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究計画の立案 2．調査・実験の実施 3．データ処理 4．博士論文の作成 5．研究成果のプレゼンテーション
授業の進め方	
テキスト，教材，参考書	【テキスト】 資料を配布する。 【参考書・参考資料等】 適宜，指示する。
成績評価の方法	研究への取り組みおよび学位論文
成績評価の基準	
事前事後学習の内容	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

登録コード:MA821106		授業科目区分	必修科目
科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science		
担当教員	池上 俊彦		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子保健学領域 / 1～3年次 通年・不定期 通年		
単位数、講義室	6 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	専門職としての立場から研究課題を解決に導くことができる。	
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	専門職としての立場から研究課題を見出すことができる。	
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定、研究計画の立案、調査・研究の遂行、論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。一般外科領域に関連した病院、病態、周術期管理、予後等に関する研究課題をプレゼンテーションとディスカッションを通じて設定し、倫理的配慮に基づいた研究計画書を立案・作成する。それを基に倫理委員会申請書類を作成する。研究計画書に基づき研究を実施し、信頼性、妥当性のある研究分析法によりデータの収集、解析を行う。一連の研究成果を論文にまとめ、国内外で発表する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> 1．国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題が設定できる。 2．課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成することができる。 3．研究計画書に従ってデータを収集、分析し、科学的論文を作成することができる。 4．一連の過程が自律してできることにより、情報収集能力、分析能力を養うことができる。 5．研究成果を国内外に発信することで情報発信能力を養うことができる。 <p>以上、成人保健学領域に関連する研究計画の立案、研究の実施、博士論文作成という一連の過程を通して、成人期における保健学研究法概念と手法を修得する。</p>		
SBOs（行動目標）	<p>以下の過程について主体的に、かつ自律して取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定する。 2．課題に従って研究を推し進めるための各種条件を整えながら、研究計画書、倫理委員会申請書類を作成する。 3．研究計画書に従って必要なデータを収集する。 4．適切な分析方法を選択する。 5．科学的論文を作成する。 6．研究成果を国内外で発表する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1．プレゼンテーションとディスカッションを通じ国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定し、研究計画書を立案する。 2．プレテストを実施し、研究計画書の修正を行う。 3．研究に関する倫理について必要な内容を含めて明確に把握するとともに、信州大学医学部医倫理委員会での研究倫理審査を受ける。 4．研究計画書に従ってデータを収集する。 5．収集したデータを分析する。 6．収集したデータ分析から導かれた結果に基づいて博士論文を完成させる。また、それを発表する。 		
授業の進め方	プレゼンテーションとディスカッションに基づき進める。		
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 指定しない。</p> <p>【参考書・参考資料等】 研究課題の内容により適宜、紹介する。</p>		
成績評価の方法	研究への取り組みおよび学位論文の内容により評価する。		
成績評価の基準	作製された論文が独創性があるか、意義があるかについて評価。		
事前事後学習の内容	自主的に文献検索等を進める。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>質問・相談には、随時、対応します。 ディスカッション等の時間以外は、原則としてメールで対応します。 池上： tikegami@shinshu-u.ac.jp</p>		

登録コード:MA821107	授業科目区分	必修科目
科目名	成人保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Adult Health Science	
担当教員	山崎 浩司	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人保健学領域 / 1～3年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。	課題設定, 方法論的理解, 分析・考察の遂行, 論文作成や学会発表を通して身につける。
授業概要	成人保健学領域における研究課題の設定, 研究計画の立案, 調査・研究の遂行, 論理的に構成された博士論文の作成という一連の研究活動を指導教員の助言・指導のもとで行う。死生学的ないし医療社会学的な問題関心のもと, 成人保健にまつわる実証研究か理論研究を行い, 博士論文をまとめる。 ただし, 実証研究の場合, 担当教員の専門性との関係から, 質的研究を希望していることを基本とする。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	成人保健学領域に関する研究計画の立案, 研究の実施, 博士論文作成という一連の過程を通して, 成人期における保健学研究法概念と手法を修得する。	
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な関連文献を渉猟することができる。 ・ 関連文献のクリティカルな比較検討ができる。 ・ 研究テーマを適切に設定できる。 ・ 適切な調査・研究の方法を選択し, その方法に関する理解を自ら積極的に深められる。 ・ 実証研究の場合, 倫理委員会提出用の書類が自立的に作成できる。 ・ 実証研究の場合, 選択した調査・研究の方法を深く理解し, 適切に遂行できる。 ・ 進行計画にのっとり研究を進展させ, 完遂することができる。 ・ 関係学会で発表できる。 ・ 関係雑誌に発表できる。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献の渉猟とクリティークによる研究課題の設定 2. 研究計画の立案 3. 研究計画書の作成 (実証研究) 4. 倫理委員会提出用書類の作成 (実証研究) 5. データ収集の方法の学習と実施 (実証研究) 6. データ分析の方法の学習と実施 (実証研究) 7. 論文化における総合考察・博士論文作成 8. 研究成果のプレゼンテーション 	
授業の進め方	個別ないしグループでの指導・発表・議論	
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 配布ないし指示する。	
成績評価の方法	研究への取り組みおよび博士論文等の内容	
成績評価の基準	<p>秀: 博士論文が独創的かつ極めて論理的であり, さらに今後自信をもって研究を遂行したり他者に指導したりできる。</p> <p>優: 博士論文がそれなりに独創的かつ論理的であり, 今後研究の遂行や他者への研究指導も十分にできる。</p> <p>良: 博士論文はあまり独創的ではないが論理的であり, 今後研究の遂行や他者への研究指導もなんとかできる。</p> <p>可: 博士論文はかろうじて独創性と論理性を有しているが, 今後研究の遂行や他者への研究指導はまだ難しい。</p> <p>不可: 博士論文を完成させることができず, 今後の研究の適切な遂行や他者への十分な研究指導が望めない。</p>	
事前事後学習の内容	毎回の研究指導に臨むにあたり, 各自で積極的に文献渉猟・クリティーク, 方法論等の自己学習, データ収集と分析, 考察および論文作成や発表の準備を進めること。また, 自分で関連する学会を探して入会し, 発表や雑誌への投稿を進めること。(もちろん, 必要に応じて適切と思われる学会等の情報を提供します。)	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	相談への対応は, まずはメールで行います。: hryamazaki@shinshu-u.ac.jp	

登録コード:MA830100		授業科目区分	必修科目
科目名	老年保健学特講 Special Lectures in Geriatric Health Science		
担当教員	上村 智子 他 横川 吉晴, 杉山 暢宏, 會田 信子, 務臺 均		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1年次	前期	木曜, 5時限 木曜, 6時限
単位数、講義室	2単位	保健学科 2 1 1 講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。	高齢者への保健・医療・福祉活動の有効性を評価する理論枠組みについて学習する。	
	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	高齢者への保健・医療・福祉活動の有効性を評価する理論枠組みについて学習する。	
授業概要	高齢者への保健・医療・福祉サービスの有効性を生活機能や生活の質 (QOL) 向上の視点から分析する理論的枠組みをリハビリテーション科学や精神医学や看護学の立場から考究し、サービス向上に資する方法論について理解を深める。		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	老年期における心身の健康問題の予防や治療やケアを目的とした保健学の取り組みと、EBPの観点にそった研究法、さらに研究成果を政策提言としてまとめる方法論を修得する。		
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健常および虚弱高齢者の活動能力関連要因を分析し、研究方法を検討することにより研究デザインを立案できる。 ・ 加齢性疾患を有する人の活動および参加制限を理解し、それに対する効果的なりハビリテーションを分析・検討することができる。 ・ 老年期精神障害の特徴 (精神症候、認知機能障害と器質因の相互関係) について説明できる。 ・ 老年期うつ病、認知症、せん妄の総合マネジメント (身体的、言語的介入、心理社会的介入および家族介入など) について説明できる。 ・ 加齢と疾病による機能障害を補うADL支援技術の開発・改良に資する研究について具体的な提言ができる。 ・ 高齢者を介護する家族や介護従事者で派生する諸問題をミクロ・マクロ的に分析し、保健・医療・福祉サービスの向上に資する方法論を多面的に検討し、政策提言としてまとめることができる。 		
授業計画	第1回: 健常高齢者や虚弱高齢者の活動能力とそれに関連する要因 (横川) 第2回: 健常高齢者や虚弱高齢者の活動能力を保持する方略の研究1 (横川) 第3回: " " 2 (横川) 第4回: 加齢性疾患が生活機能や社会参加に影響する要因の研究 (務台) 第5回: 脳卒中患者のリハビリテーションに関する研究 (務台) 第6回: 高齢骨折患者のリハビリテーションに関する研究 (務台) 第7回: 老年期精神障害の特徴 (杉山) 第8回: 認知症疾患の認知機能障害からみた疾患別の特徴 (杉山) 第9回: 老年期精神障害者の治療・マネジメントに関する研究 (杉山) 第10回: 認知機能や身体機能の低下を補うADL支援技術の課題 (上村) 第11回: 課題解決のための評価ツール開発の研究 (上村) 第12回: 効果検証のための研究計画 (上村) 第13回: 高齢者の介護家族や介護従事者で派生する諸問題1: 問題の分析 (會田) 第14回: " " 2: 問題解決の方略 (會田) 第15回: " " 3: 政策提言 (會田)		
授業の進め方	授業は、配布資料に基づく講義形式、もしくは、学生のプレゼンテーションとディスカッション形式で進めます。 また、各単元の最初に提示する課題を実施していただきます。		
テキスト、教材、参考書	資料を配布します。 参考書は、授業で紹介します。		
成績評価の方法	出席と課題の成果に基づいて、総括的に成績を評価します。 遅刻・早退は1回で - 2点、欠席は1回で - 4点とします。		
成績評価の基準	出席と課題の成果による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90 - 100点: 秀, 80 - 89点: 優, 70 - 79点: 良, 60 - 69点: 可		
事前事後学習の内容	【事前学習】 単元ごとに教員が指示します。 【事後学習】 各自、まとめを作成して、その内容を反映して、課題を実施してください。 質問には、メールで対応します。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は、随時受け付け、可能な限り積極的に対応します。 開講日については、別途、連絡します。 メールでの連絡先は以下の通りです。 上村: tkamimu@shinshu-u.ac.jp 横川: fhakuba@shinshu-u.ac.jp 杉山: nsugi@shinshu-u.ac.jp 會田: aida@shinshu-u.ac.jp 務台: hitmutai@shinshu-u.ac.jp		

科目名	老年保健学演習 A Practice in Geriatric Health Science A	
担当教員	上村 智子 務臺 均	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1 年次	後期 水曜, 5 時限 水曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。	ADL支援技術の向上・開発における課題を発見し解決するための手法を学習する。
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	ADL支援技術の向上・開発における課題を発見し解決するための手法を学習する。
	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	ADL支援技術の向上・開発における課題を発見し解決するための手法を学習する。
授業概要	心身機能の低下した高齢者へのADL支援に関する国内外の文献の講読と批判的思考を通して、実施可能性、新奇性、倫理性、臨床現場での切実性を兼ね備えたりサーチクエスチョンを立案する能力を涵養する。 さらに研究課題の実施に必要な研究方法についても国内外の論文・教科書を講読し、研究方法を追及することで、研究課題の遂行に必要な条件を整備する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	老年保健学領域に関する研究課題について、国内外の文献の講読と批判的思考を通して、研究課題を精選するとともに、研究課題を進めるための研究手法や各種条件を整える。	
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に関する原著論文を適切に収集し、邦文、欧文に関わりなく読み解くことができる。 ・ 文献講読を通して、主体的に課題を導くことができる。 ・ 研究課題を進めるにあたり、必要な各種条件を整えることができる。 ・ 研究計画書を作成できる。 	
授業計画	第1回～第6回：研究課題の推敲と文献レビュー 第7回～第12回：研究課題の実施に必要な研究方法の習得や準備 (適切な研究デザインや成果測定を選択と実施、研究フィールドとの調整) 第13回～第15回：研究計画の立案	
授業の進め方	講義と、学生のプレゼンテーションとディスカッションを組み合わせで行います。	
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介します。	
成績評価の方法	出席と課題のプレゼンテーションやディスカッションの内容に基づいて、総合的に成績を評価します。	
成績評価の基準	秀：SBOの達成度が卓越した水準にあり、複雑な応用問題を議論できる 優：SBOの達成度が良好な水準にあり、基本的な応用問題を議論できる 良：SBOの達成度が普通的水準にあり、基本的な応用問題を議論できる 可：SBOの達成度が最低限の水準にあり、基本的な応用問題を議論できる	
事前事後学習の内容	【事前学習】身体障害や老年期障害のある人の在宅生活支援の課題を事前に把握して授業に臨んでください。 【事後学習】授業の中で疑問に感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復習するように取り組んでください。 質問には、メールで対応します。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は、随時受け付け、可能な限り積極的に対応します。 開講日については、別途、連絡します。 メールでの連絡先は以下の通りです。 上村：tkamimu@shinshu-u.ac.jp 務台：hitmutai@shinshu.u.ac.jp	

登録コード:MA830500		授業科目区分	選択科目
科目名	老年保健学演習 B Practice in Geriatric Health Science B		
担当教員	杉山 暢宏		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1 年次	後期	木曜, 5 時限 木曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。 老年医学の研究を遂行するための能力を身につけさせる。		
授業概要	高齢者の認知機能や精神機能の障害と生活機能の障害の関連を的確に捉え、リハビリテーション科学の視点から研究を遂行するための能力を身につけさせる。 認知症やうつ病などの精神障害を有する高齢者の生活機能障害に対する支援や活動性向上のための治療の有効性や、適合性、理論の妥当性等の課題について先行研究を取り上げ、他職種との連携を視野に入れた演習形式による指導を行う。 事例検討や討論を通して、臨床現場でリーダーシップを発揮し問題解決するための戦略立案能力の修得を目指す。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	高齢者の認知機能障害や精神機能の障害と生活機能の障害の関連を的確に捉え、リハビリテーション科学の視点から研究を遂行するための能力を身につけさせる。 認知症やうつ病などの精神障害を有する高齢者の生活機能障害に対する支援や活動性向上のための治療の有効性について先行研究を取り上げ、他職種との連携を視野に入れた演習形式による指導を行う。 臨床現場でリーダーシップを発揮し問題解決するための臨床評価能力や戦略立案能力、科学的根拠を作成するための研究立案能力の修得を目標とする。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心身機能の加齢変化と関連要因について説明できる。 ・ 高齢者の活動能力保持のための方略について説明できる。 ・ 老年期精神障害の特徴（精神症候と認知機能障害と器質因の相互関係）について説明できる。 ・ 高齢者うつ病の総合的マネジメントについて説明できる。 ・ 保健医療福祉現場へのフィールドワークの実際と課題について意見が述べられる。 ・ 加齢性疾患をもつ人のADL支援技術における課題と解決策について意見を述べ、ディスカッションできる。 		
授業計画	第 1 回～第 5 回：研究のテーマと文献レビュー 第 6 回～第 8 回：研究テーマのための評価法の演習 第 9 回～第 12 回：物忘れ外来や在宅支援センター等でのフィールドでの実地演習 第 13 回～第 15 回：研究デザインと研究計画		
授業の進め方	受講者の研究テーマに応じて講義，ディスカッションを企画する。		
テキスト，教材，参考書	受講者の研究テーマに応じて適宜，指示する。		
成績評価の方法	出席 3 0 %，ディスカッションへの参加状況 3 0 %，およびレポート課題 4 0 % レポート提出後に評価する。		
成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」，(i) ～(v) の 5 項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」，4 項目までできていれば「やや上にある（良）」，3 項目までできていれば「水準にある（可）」。		
事前事後学習の内容	受講者の研究テーマに応じて適宜，指示する。		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問，相談は，オフィスアワー参照。		

科目名	老年保健学演習 C Practice in Geriatric Health Science C	
担当教員	横川 吉晴	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1 年次	後期 金曜, 5 時限 金曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	在宅で生活する高齢者の体力や活動能力を評価でき、介入方法を説明できる。
授業概要	地域社会における高齢者の体力・活動能力の実態とその関連要因の解明、縦断的研究による生体諸機能や身体健康指標の加齢過程およびその関連要因の分析、老年症候群の危険因子の究明、健やかな高齢社会のための手立てや政策の樹立を目的とした地域介入研究を中心とする文献レビューを行う。 在宅で自立した生活を送る高齢者の様々な社会活動支援プログラムや、転倒予防などの健康教育プログラムに関するフィールドワークを通して、理論の妥当性、計画と実施プロセスの一貫性、成果の各段階を評価する手法を学習させる。 以上の課題について演習形式で指導する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	日常生活の自立した健康な高齢者やより活動能力の高い高齢者、そして自立をしているもののADLの一部に援助が必要と考えられる虚弱高齢者などを対象に、身体活動能力を測定評価し、さらには維持向上させる介入の方略を修得する。	
SBOs（行動目標）		
授業計画	第1回～第6回：研究テーマと文献レビュー 第7回～第10回：測定方法の演習 第11回～第13回：フィールドワーク（研究協力地域における測定の実際を学習する） 第14回～第15回：研究デザインと研究計画	
授業の進め方	配付資料に基づいて進める。	
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 資料を配付する。 【参考書・参考資料等】 適宜、指示する。	
成績評価の方法	授業やディスカッションへの参加状況およびレポート	
成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	毎回リーディング課題を課す。 授業開始直後にその理解を問う小テストを行うので、それに備えて課題をしっかりと読み込んでから授業に臨むこと。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応		

登録コード:MA830800		授業科目区分	選択科目
科目名	老年保健学演習 D Practice in Geriatric Health Science D		
担当教員	會田 信子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1 年次		後期
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	老年看護学領域の専門職者に必要な実践・教育・研究能力を涵養する。	
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	老年看護学領域における独創的研究を自立的に探求することができる。	
授業概要	老年看護学領域における研究テーマに関するシステマティック・レビューを通して、自身のリサーチ・クエスチョンを自立的に明確化し、研究目的に基づく研究計画の方向性を言語化していく。 研究課題の精選プロセスにおいては、当該分野の専門家とのディスカッションやフィールド・ワークなどを行いながら、研究を推進していくための条件を整備する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	社会に貢献しうる意義ある研究課題選定のプロセスを自立的・主体的に探求し、研究計画書作成に必要な基礎的・発展的な能力を涵養する。		
SB0s（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心テーマに関する先行研究をシステマティックにレビューし、自身のリサーチ・クエスチョンを明確化できる。 2. リサーチ・クエスチョンに基づく研究目的を達成するための現実的で、倫理的に配慮された方法を検討することができる。 3. 研究計画を推進していくための条件等を明らかにし整えていくことができる。 		
授業計画	第1回（9月29日）オリエンテーション 第2回（10月6日）システマティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化 第3回（10月13日）システマティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化 第4回（10月20日）システマティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化 第5回（10月27日）システマティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化 第6回（11月10日）システマティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化 第7回（11月17日）システマティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化 第8回（11月24日）研究方法と倫理的配慮 第9回（12月1日）研究方法と倫理的配慮 第10回（12月8日）研究方法と倫理的配慮 第11回（12月15日）研究方法と倫理的配慮 第12回（12月22日）研究方法と倫理的配慮 第13回（1月19日）研究計画遂行のための条件整備 第14回（1月26日）研究計画遂行のための条件整備 第15回（1月26日）まとめ * 実施日程および担当者等に変更がある場合は、初回オリエンテーション時にお知らせします。		
授業の進め方	学生個々の研究テーマや進捗状況を勘案しながら、プレゼンテーション、ディスカッションおよび個別指導で進める。		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示・紹介する。		
成績評価の方法	下記について総合的に判断する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーション 2. ディスカッション 3. 課題の達成度 		
成績評価の基準	成績評価方法について、プレゼンテーションの内容の論理的でわかりやすい、ディスカッションに主体的・積極的に参加している、問題設定が適切である、問題の背景を論理的に説明できる、問題の背景に対して、既存の知見・学説が適切に把握されている、その上で自身の見解を提示できており、かつ教員を感動させるレベルにあれば「卓越している」と評価する。 上記 ~ のうち5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目まで出来ていれば「やや上にある」、3項目まで満たしていれば「水準にある」と評価する。		
事前事後学習の内容	ディスカッションすべき資料を準備してクラスに臨むこと。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は、随時、受け付けます。 課題に対して、主体的に探求していく姿勢を期待します。		

科目名	老年保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Geriatric Health Science	
担当教員	上村 智子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1 ~ 3 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。	ADL支援技術の向上・開発における課題を発見し解決するための手法を学習する。
	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	ADL支援技術の向上・開発における課題を発見し解決するための手法を学習する。
	保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。	ADL支援技術の向上・開発における課題を発見し解決するための手法を学習する。
授業概要	心身機能の低下した高齢者へのADL支援に関わる、実施可能性、新奇性、倫理性、臨床現場での切実性を兼ね備えたりサーチクエスチョンを立案する。 また、研究課題を実施するために最も適した信頼性、妥当性のある研究手法によるデータ収集と解析を行い、研究成果を論文にまとめて発表する。 この一連の過程を自律して遂行できるように指導する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定することができる。 その課題に従って研究を進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成する。 研究計画書に従ってデータを収集し分析して科学的論文を作成する。 この一連の課程を自律して遂行できる。	
SBOs (行動目標)	以下の過程について主体的に、かつ自立して取り組むことができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の研究の動向を理解するとともに、独創的な観点から研究課題を設定することができる。 ・その課題に従って研究を進めるための各種条件を整えながら、研究計画書を作成することができる。 ・研究計画書に従って必要なデータを収集することができる。 ・適切な分析方法を選択できる。 ・科学的論文を作成できる。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習で行った文献レビューを通して、研究課題を定めて研究計画を立案する。 2. 作成した研究計画についてクリティカルな討論を行う。 3. 信頼性と妥当性を確保したデータ収集と分析を行う。 4. 結果についてクリティカルな討論を行う。 5. 論文作成 6. プレゼンテーション 	
授業の進め方	個別およびグループでの研究ミーティングを通して、一連の研究活動を進めます。	
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介します。	
成績評価の方法	研究への取り組み状況および学位論文と発表会の内容を総合的に評価し判定します。	
成績評価の基準	研究課題の設定、研究計画の立案と実施、研究成果の発表と論文作成の取り組み状況と成果に基づいて、下記の基準で行います。 秀：十分に信頼性・妥当性のある独創的な研究活動ができる 優：概ね信頼性・妥当性のある独創的な研究活動ができる 良：基本的なレベルで信頼性・妥当性のある独創的な研究活動ができる 可：最低限のレベルで信頼性・妥当性のある独創的な研究活動ができる	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問と相談は、メールでお願いします。 tkamimu@shinshu-u.ac.jp	

登録コード:MA830901		授業科目区分	必修科目
科目名	老年保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Geriatric Health Science		
担当教員	杉山 暢宏		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1 ~ 3 年次	通年	, 不定期
単位数、講義室	6 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。	老年保健学に関わる国際的論文の作成	
授業概要	<p>老年保健学の分野において、大学院生の企画・立案した研究課題についての調査や分析を進め、考察を深めるとともに、論理的な結論を導き出し、博士論文を作成させる。認知症や老年期うつ病など精神・神経機能に障害のある高齢者のADL障害や社会活動参加を妨げる要因の分析や改善に関する問題を探求する博士論文を作成させる。具体的には、高齢者うつ病患者における精神症状と認知機能との関係や、高齢者特有の妄想の器質的因子の解析、アルツハイマー病やレビー小体型認知症、進行性核上性麻痺などの認知機能障害や神経症候を伴う認知症疾患を対象に疾患別の病態理解やQOL向上のための研究に取り組む。</p>		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	老年保健学に関連する博士論文作成に必要な能力を修得する。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の心身機能の加齢変化と関連要因について説明できる。 ・ 高齢者の活動能力保持のための方略について説明できる。 ・ 老年期精神障害の特徴（精神症候と認知機能障害と器質因の相互関係）について説明できる。 ・ 高齢者うつ病の総合的マネジメントについて説明できる。 ・ 保健医療福祉現場へのフィールドワークの実際と課題について意見が述べられる。 ・ 加齢性疾患をもつ人のADL支援技術における課題と解決策について意見を述べ、ディスカッションできる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習で行った文献レビューを通して、研究課題を定めて研究計画を立案する。 2. 作成した研究計画についてクリティカルな討論を行う。 3. 信頼性と妥当性を確保したデータ収集と分析を行う。 4. 結果についてクリティカルな討論を行う。 5. 論文作成 6. プレゼンテーション 		
授業の進め方	講義，討論		
テキスト，教材，参考書	なし		
成績評価の方法	<p>学位論文によって評価する。</p> <p>学位論文完成時に成績は評価する。</p>		
成績評価の基準	<p>学位論文の内容</p> <p>(i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」，(i) ~ (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」，4項目までできていれば「やや上にある（良）」，3項目までできていれば「水準にある（可）」。</p>		
事前事後学習の内容	適宜，指導する。		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	質問，相談：オフィスアワー参照		

科目名	老年保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Geriatric Health Science	
担当教員	横川 吉晴	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1 ~ 3 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	老年保健学分野における自律した研究の進め方を身につける。
授業概要	<p>老年保健学の分野において、大学院生の企画・立案した研究課題についての調査や分析を進め、考察を深めるとともに、論理的な結論を導き出し、博士論文を作成させる。テーマは1) 高齢者の健康に関する心理・社会的リスク要因, 2) 高齢者に関連する保健活動の評価, 3) 高齢者の健康維持、機能低下の遅延に寄与する介入法の開発とその評価などに関するものである。</p> <p>博士論文の作成にあたっては、実証研究の方法論についての体系的な知識・技術の修得を目指す。</p> <p>具体的には、在宅高齢者の活動能力保持に関連する要因と介入プログラム、高齢者自身によるボランティア、転倒予防教室、介護予防事業、訪問リハビリテーションなどのプログラム内容や地域におけるネットワークのあり方を取り上げて探求する。</p>	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	老年保健学に関連する博士論文作成に必要な能力を修得する。	
SB0s (行動目標)		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習で行った文献レビューを通して、研究課題を定めて研究計画を立案する。 2. 作成した研究計画についてクリティカルな討論を行う。 3. 信頼性と妥当性を確保したデータ収集と分析を行う。 4. 結果についてクリティカルな討論を行う。 5. 論文作成 6. プレゼンテーション 	
授業の進め方		
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 資料を配布する。</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜、指示する。</p>	
成績評価の方法	研究に取り組む態度および学位論文	
成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, (i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目までできていれば「やや上にある」, 3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	<p>【事前学習】毎回の研究打ち合わせの最後に、次の回につながる課題を出す。</p> <p>【事後学習】課題の理解を確認するので発表し説明できるようにする。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応		

登録コード:MA830903		授業科目区分	必須科目
科目名	老年保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Geriatric Health Science		
担当教員	會田 信子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1 ~ 3 年次		通年
単位数、講義室	6 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<small>医学、保健学および関連科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</small>	クリティカルな視点と高い倫理性に基づいた研究活動が遂行できる。	
	<small>保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。</small>	老年看護学領域における独創的・国際的研究の遂行と論文作成。	
	<small>保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。</small>	社会に寄与しうる研究課題を探求し、自立的に遂行できる。	
授業概要	老年看護学領域に関するテーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を遂行し、博士論文を完成させる。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	研究テーマの設定から、研究論文作成の一連の過程を通し、高い倫理観と科学的基盤に基づいた問題解決のための基礎的・発展的能力を習得することができる。		
SB0s（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを設定できる。 2. 適切な研究方法を選択して研究計画書が作成できる。 3. 倫理委員会提出用の書類が作成できる。 4. データの収集ができる。 5. データの分析ができる。 6. 研究論文を作成することができる。 7. 研究成果のプレゼンテーションができる。 		
授業計画	<p>学生個々の研究テーマや進捗状況を勘案しながら進める。</p> <p>* 具体的な実施日程等については、初回オリエンテーション時にお知らせします。</p>		
授業の進め方	個人指導，プレゼンテーション，ディスカッション		
テキスト，教材，参考書	適宜，指示・紹介する。		
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博士論文の完成度 2. プレゼンテーション 		
成績評価の基準	<p>博士論文は、問題の設定が適切であり、その問題の背景を論理的に説明できており、その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、それらの課題に対して、既存の知見・学説が提示する解決法が適切に把握できており、その上で自身の見解を提示できており、かつ、教員を感動させるレベルにあり、さらに、その研究成果をロジカルにわかりやすく、適切にプレゼンテーションすることができれば「卓越している」と評価する。</p> <p>上記 ~ のうち5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目まで満たしていれば「水準にある」と評価する。</p>		
事前事後学習の内容	ディスカッションすべき資料を準備してクラスに臨むこと。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は、随時、受け付けます。 課題に対して、主体的に探求していく姿勢を期待します。		

科目名	老年保健学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Geriatric Health Science	
担当教員	務臺 均	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年保健学領域 / 1 ~ 3年	通年 ,不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	研究を進める中で習得する。
	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。	学会発表、論文作成の中で習得する。
授業概要	加齢性疾患をもつ高齢者のリハビリテーションにおける、評価方法の開発、介入研究および予後調査等に関して、大学院生の企画・立案した研究課題についての調査や分析を進め、考察を深めるとともに、論理的な結論を導き出す指導を行い、博士論文を作成させる。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	老年保健学領域における研究課題の設定、研究計画の立案、調査・研究の遂行、論理的に構成された博士論文作成の概念と手法を習得する。	
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年保健医療福祉領域における文献レビューができる。 2. 学会発表ができる。 3. 博士論文(英文)を作成できる。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文献レビューを通して、研究課題を定めて研究計画を立案する。 2. 研究計画についてクリティカルな討論を行う。 3. 信頼性と妥当性を確保したデータ収集と分析を行う。 4. 結果についてクリティカルな討論を行う。 5. 論文作成 6. プレゼンテーション 	
授業の進め方	個別指導	
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介する。	
成績評価の方法	研究に取り組む態度および学位論文と発表会の内容を総合的に判断する。	
成績評価の基準	<p>プレゼンテーション・論文の基準：内容（構成，データの収集・分析の正確性，考察の論理性）が基準を満たしていれば「水準にある」，内容が基準をやや上回っていれば「やや上にある」，内容が良好であれば「かなり上にある」，内容が卓越していれば「卓越している」と評価する。</p> <p>総合的な判定基準は，以下の通りとします。</p> <p>90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可</p>	
事前事後学習の内容	研究の進捗状況の把握や関連文献を十分に調査する。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問は、随時、受け付けます。	

登録コード:MA840100		授業科目区分	必修科目
科目名	医療生命科学特講 Special Lectures in Health and Medical Sciences		
担当教員	相良 淳二 他 矢崎 正英, 奥村 伸生, 太田 浩良, 寺田 信生, 藤本 圭作		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	健康基礎科学領域 / 1年次 前期 金曜, 5時限 金曜, 6時限		
単位数、講義室	2単位 保健学科212講義室		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。 保健医療分野の多様な先端的研究の知識と方法を理解し、自らの研究に活かす。		
授業概要	各分野の専門家が講義形式で教授する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生体の構造と機能の変化という視点から病態を理解する。 ・ 生体の恒常性を急激に破綻させる病因の解明とその制御、破綻した生体の構造および機能の修復・再生のための最新の知見を学習する。 ・ 蛋白質・脂質・糖質・核酸などの生体を構成する分子の量的あるいは質的異常に基づく病態をエビデンスに基づき早期に診断するための方法を理解する。 		
SBOs(行動目標)	幅広い医療生命科学の講義から、単なる知識としてではなく、現在および将来の研究に繋がるものを学びとる姿勢が必要である。		
授業計画	第1回(4月14日) 医療生命科学概論 - 分子細胞生物学(相良淳二) 第2回(4月21日) 医療生命科学概論 - 生体情報と臨床化学(奥村伸生) 第3回(4月28日) がんの分子細胞生物学(相良淳二) 第4回(5月12日) 医療関連感染対策の基礎と実践1(長野則之) 第5回(5月19日) 神経難病疾患の研究(矢崎正英) 第6回(5月26日) 膜骨格の分子形態(寺田信生) 第7回(6月2日) 呼吸機能検査機器の開発研究の紹介(藤本圭作) 第8回(6月9日) 血漿蛋白異常症と欠損症の遺伝子解析と蛋白解析(奥村伸生) 第9回(6月16日) 医療生命科学概論 - 形態学と病理学(太田浩良) 第10回(6月23日) 骨の分子生物学(青木薫) 第11回(6月30日) 医療関連感染対策の基礎と実践2(小穴こず枝) 第12回(7月7日) 血液腫瘍性疾患の分子病態(石田文宏) 第13回(7月14日) 病理組織および細胞標本における画像特徴量と機械学習(木村文一) 第14回(7月21日) 脂質分子および脂質分子代謝産物の高感度・高分解能分析(日高宏哉) 第15回(7月28日) 消化管粘膜上皮細胞の細胞形質の特徴と病態(太田浩良)		
授業の進め方			
テキスト, 教材, 参考書	適宜, プリントを配布。		
成績評価の方法	出席状況とレポートの評価		
成績評価の基準	積極的授業への取り組み。 レポートは探求型の調査研究を求める。		
事前事後学習の内容	英語の論文を教材とする場合は, 教材となる論文を指定する。		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	(奥村伸生) 個別の相談は, 事前の連絡(e-mail: nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570)によって随時, 対応する。 (藤本圭作) 個別の相談は, 事前の連絡(e-mail: fkeisaku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3571)によって随時, 対応する。		

登録コード:MA840300		授業科目区分	選択科目
科目名	医療生命科学演習 A Practice in Health and Medical Sciences A		
担当教員	藤本 圭作 他 矢崎 正英, 相良 淳二, 長野 則之		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1年次 後期 火曜, 5時限 火曜, 6時限		
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。</p> <p>内科系疾患の病態を理解すると共に、研究や診療の情報収集・分析能力を習得する。</p> <p>研究成果の英語による論文化と世界に情報発信する方法および技能を修得する。</p> <p>医学倫理に則り、最新のエビデンス・情報を集め研究を実践できる能力を習得する。</p> <p>自らの研究領域において課題を見つけ、高度な倫理観と最先端の専門知識で解決できる。</p>		
授業概要	病原微生物の生物学的研究方法、動物実験モデルの応用、生体の感染防御機構や生理機能評価等に関する原著論文を教材としてセミナーをおこなう。 自由な討論と最新の専門知識の解説によって専門知識を深化させる。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	薬剤耐性菌の発生、再興・新興感染症の流行、感染に起因する神経変性疾患・自己免疫疾患・ガンや、生理学的機能障害は人間の健康を常に脅している。 感染症の最近の動向、病原微生物の生物学的研究方法、動物実験モデルの応用、生体の感染防御機構や生理学的機能とその破綻による病気の発症に関する演習によって、この分野における研究能力を養う。		
SBOs（行動目標）	各種疾患の病態の基本的な事項およびその機序について理解し説明できる。 疾患および病態の診断および病態解明に必要な臨床検査の必要性和意義が理解でき、さらに進めるべき検査について説明することができる。		
授業計画	第1回（10月3日）：国内感染症の最近の動向（長野則之） 第2回（10月10日）：薬剤耐性菌と院内感染（長野則之） 第3回（10月17日）：院内感染対策とチーム医療（長野則之） 第4回（10月24日）：感染症の症例と臨床微生物学的視点（長野則之） 第5回（10月31日）：培養細胞を用いた感染研究（相良淳二） 第6回（11月7日）：病原体感染と細胞死-1（相良淳二） 第7回（11月14日）：病原体感染と細胞死-2（相良淳二） 第8回（11月21日）：病原体感染と自然免疫（相良淳二） 第9回（11月28日）：COPD患者における呼吸困難のメカニズム（藤本圭作） 第10回（12月5日）：COPDと喘息の類似点と相違点（藤本圭作） 第11回（12月12日）：睡眠のメカニズム（藤本圭作） 第12回（12月19日）：睡眠障害の原因疾患と病態（藤本圭作） 第13回（12月26日）：難治性神経疾患I（矢崎正英） 第14回（1月16日）：神経疾患と異常蛋白沈着（矢崎正英） 第15回（1月23日）：アミロイドーシスの発症機序と新規診断法（矢崎正英）		
授業の進め方	臨床例を呈示し、病態、検査の進め方と考え方、検査方法等を討論する。		
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 英語また和文の原著論文 【参考書・参考資料等】 医系免疫学（中外医学社）、Microbiology (Black JG著, WILEY社)		
成績評価の方法	出席状況およびセミナーでの発表		
成績評価の基準	出席状況は2/3以上必要であり、セミナーでの発表内容につき、(i) 課題の設定が適切であり、(ii) その課題や論文の背景を説明出来ており、(iii) その論文にどのような課題があるのかを指摘出来ており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握出来ており、(v) その上で自分の見解を提示出来ており、かつ、教員を感動させるレベルにあれば「卓越している」と評価する。また、(i)～(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目まで出来ていれば「やや上にある」、3項目まで出来ていれば「水準にある」と評価する。 以上の結果を総合して、成績評価を行う。		
事前事後学習の内容	1.事前学習について 課題となる論文を提示し、内容を理解し、当日発表させる。また、事前にe-Alpsにスライド原稿を載せます。 2.事後学習について 毎回、授業の始めに、前回の授業のポイントについて質問をしますので、復習をして授業に臨んでください。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	図書館やITを利用して様々な医学・医療情報を収集して授業に臨むこと。 個別の相談は、事前の連絡によって随時、対応する。 （矢崎）e-mail ; mayazaki@shinshu-u.ac.jpまたは内線3566 （藤本）e-mail ; keisaku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3571 （相良）e-mail ; sagaraj@shinshu-u.ac.jpまたは内線3533 （長野）e-mail ; naganon@shinshu-u.ac.jpまたは内線3557		

登録コード:MA840500		授業科目区分	選択科目
科目名	医療生命科学演習 B Practice in Health and Medical Sciences B		
担当教員	奥村 伸生 他 石田 文宏, 日高 宏哉		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 年次 後期 木曜, 5 時限 木曜, 6 時限		
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>英語での学会発表および論文執筆のポイントを習得する。</p> <p>医学、保健学および関連科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>CITIを受講する。他分野の科学の発展を医学・保健学分野に応用する方法を習得する。</p> <p>保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。</p> <p>卒研究生・博士前期課程学生の研究指導補助を通して、教育・研究の指導方法を習得する。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において、高い倫理性と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。</p> <p>日常検査業務の中から研究テーマを見つけ、研究計画立案・倫理申請ができること。</p>		
授業概要	血漿蛋白および脂質の異常とその病態に関する分析・解析に関連する文献をはじめとする関連情報を収集し、それらの講読と指導教員を交えた討論より、研究を進めるための計画・実験方法・データのまとめ方・結論の導き方・考察の広さと深さなどの妥当性を分析・評価できる能力を養う。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	健康基礎科学特別研究を行うために血漿蛋白および脂質の異常とその病態に関する分析・解析方法と意義を演習し、病因・病態解析ができる应用能力を育成する。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関連する文献をはじめとする関連情報の収集能力を習得する。 研究テーマに関連する文献をはじめとする関連情報の分析能力を習得する。 研究結果を分析・評価する能力を習得する。 研究結果を英文論文として情報発信する能力を習得する。 		
授業計画	<p>第1回（9/28）血液学1 血液細胞の特性と解析法の概要（石田文宏）</p> <p>第2回（10/5）血液学2 血液腫瘍細胞の腫瘍関連蛋白の解析（石田文宏）</p> <p>第3回（10/12）血液学3 血液学的異常とタンパク質異常症1（石田文宏）</p> <p>第4回（10/19）血液学4 血液学的異常とタンパク質異常症2（石田文宏）</p> <p>第5回（10/26）血液学5 血液学的異常とタンパク質異常症3（石田文宏）</p> <p>第6回（11/2）タンパク質異常症と欠損症の病因解析の概要（奥村伸生）</p> <p>第7回（11/9）分子生物学的タンパク機能解析法1（奥村伸生）</p> <p>第8回（11/16）分子生物学的タンパク機能解析法2（奥村伸生）</p> <p>第9回（11/30）分子生物学的タンパク欠損解析法1（奥村伸生）</p> <p>第10回（12/7）分子生物学的タンパク欠損解析法2（奥村伸生）</p> <p>第11回（12/14）脂質生物学の概要（日高宏哉）</p> <p>第12回（12/21）脂質メディエーターとその機能1（日高宏哉）</p> <p>第13回（1/11）脂質メディエーターとその機能2（日高宏哉）</p> <p>第14回（1/18）脂質メディエーターとその機能3（日高宏哉）</p> <p>第15回（1/25）脂質メディエーターとその機能4（日高宏哉）</p>		
授業の進め方	セミナー形式		
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 なし</p> <p>【参考書・参考資料等】 最新の英語論文を紹介する。</p>		
成績評価の方法	文献講読における理解度と指導教員を交えた討論の内容により総合的に評価する。		
成績評価の基準			
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>（奥村伸生） 個別の相談は、事前の連絡（e-mail：nibuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570）によって随時、対応する。</p> <p>（日高宏哉） 個別の相談は、事前の連絡（e-mail：hiroyan@shinshu-u.ac.jpまたは内線3538）によって随時、対応する。</p> <p>（石田文宏） 個別の相談は、事前の連絡（e-mail：fumishi@shinshu-u.ac.jpまたは内線3569）によって随時、対応する。</p>		

科目名	医療生命科学演習 C Practice in Health and Medical Sciences C
担当教員	太田 浩良 他 齋藤 直人, 寺田 信生, 青木 薫, 木村 文一
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 年次 後期 金曜, 5 時限 金曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系講義科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。
授業概要	人体の正常および病的状態における変化について、組織・細胞・分子レベルから探求する。主として消化器、神経、骨、骨格筋・心筋組織を対象に、免疫組織化学、in situ hybridization法を用いた光顕的・電顕的解析法、共焦点レーザー顕微鏡を用いた3次元解析法や遺伝子発現解析法およびこれらの解析により得られるデータ解析法について教示する。 さらに、運動器の生理について理解を深める。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1.消化器、神経、骨、骨格筋・心筋組織の正常および病理について組織・細胞レベルでの形態変化の分析能力を身につけ、形態的变化を理解する。 2.組織・細胞レベルでの形態変化の解析法につき、その理論と結果の解釈法を理解する。 3.運動器の生理を理解する。
SBOs（行動目標）	1.人体の正常および病的状態における変化について、組織・細胞・分子レベルから探求する研究方法、解釈法および分析能力を習得する。 2.運動器の生理を理解する。
授業計画	(9 / 29) 第 1 回 消化管の正常組織・細胞形態と機能 (太田浩良) (10 / 6) 第 2 回 消化管の病理 (太田浩良) (10 / 13) 第 3 回 消化管粘液の解析方法の理論と病理診断への応用 (太田浩良) (10 / 20) 第 4 回 細胞分子からみた神経 (青木薫) (10 / 27) 第 5 回 神経の生理学 (青木薫) (11 / 10) 第 6 回 細胞分子からみた骨 (青木薫) (11 / 17) 第 7 回 骨の生理学 (青木薫) (11 / 24) 第 8 回 膜骨格の形態と機能の概略 (講義) (寺田信生) (12 / 1) 第 9 回 膜骨格の顕微鏡による可視化法 (実技 1) (寺田信生) (12 / 8) 第 10 回 膜骨格の顕微鏡による可視化法 (実技 2) (寺田信生) (12 / 15) 第 11 回 膜骨格の顕微鏡による可視化法 (実技 3) (寺田信生) (12 / 22) 第 12 回 病理情報学 (画像解析等) , 共焦点レーザー顕微鏡, STED顕微鏡および光音響顕微鏡の理論 (講義) (木村文一) (12 / 27) 第 13 回 同上 (実技 1) (木村文一) (1 / 19) 第 14 回 同上 (実技 2) (木村文一) (1 / 26) 第 15 回 同上 (実技 3) (木村文一)
授業の進め方	解析法の理論と結果の解析法等について議論しながら、実験・演習を行う。
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 各教員が必要に応じてハンドアウトを配布する。 【参考書・参考資料等】 1.渡辺・中根 酵素抗体法, 名倉 宏, 堤 寛, 長村 義之, 学際企画 2.電顕入門ガイドブック, 日本顕微鏡学会 (編集), 学会出版センター 3.初めてでもできる共焦点顕微鏡活用プロトコル 観察の基本からサンプル調製法, 学会・論文発表のための画像処理まで, 高田 邦昭 (編集), 羊土社
成績評価の方法	講義・実習で触れた解析法の理論と結果の解析法等についての理解度・到達度をレポート等により評価する。
成績評価の基準	
事前事後学習の内容	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	可能な限り、随時、受け付ける。

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences	
担当教員	矢崎 正英	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。</p> <p>保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。</p>	<p>臨床検査学手法による内科系疾患の病態解析に関する情報収集力・分析力を磨く。</p> <p>研究成果の英語による論文化と世界に情報発信する方法および技能を修得する。</p> <p>医学倫理に則り、最新のエビデンス・情報を集め研究を実践できる能力を習得する。</p> <p>高い倫理観と専門的知識により自ら課題を見つけ解決する能力と高度な実践能力を習得。</p> <p>医療現場で他職種と共同して研究を行うコミュニケーション、チーム医療を習得する。</p>
授業概要	異常蛋白蓄積病の代表疾患であるアミロイドーシスについて、アミロイド蛋白の解析から、アミロイドーシス病態解析・発症機序解明に関する研究を行う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文としてまとめる。	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画を立案することができるようにする。 研究計画の実行に必要な研究技術を取得することができる。 研究内容および研究成果を効率よくプレゼンテーションができるようにする。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 <p>以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。</p>	
授業の進め方	研究を実践しながら科学的思考および討議を行う。	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説</p>	
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、質問や相談を受け付ける。	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	相良 淳二
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次 通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。
授業概要	細胞内の自然免疫システムおよび細胞死シグナル経路と、それが関与する自己免疫疾患およびガンについて研究する。
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs (行動目標)	
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	文献詳読, ディスカッション, 実験と実験データ検討を適宜, 行う。
テキスト, 教材, 参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究姿勢 セミナー 研究報告
成績評価の基準	研究に対する意欲 地道な取り組み 積極性
事前事後学習の内容	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences	
担当教員	奥村 伸生	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>論文が国際的な英文誌に投稿受理されること。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。</p> <p>保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。</p>	
授業概要	先天的なフィブリノゲン異常症と欠損症の原因解析の研究と後天的に修飾されたフィブリノゲン（シトルリン化・糖化）の機能研究を行う。 研究方法には分子生物学的機能解析法を用いる。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を学会発表し、博士論文としてまとめる。	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関連する文献をはじめとする関連情報の収集能力を習得する。 研究テーマに関連する文献をはじめとする関連情報の分析能力を習得する。 研究結果を分析・評価する能力を習得する。 研究結果を英文論文として情報発信する能力を習得する。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験を実施する。 3) 実験結果や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 <p>以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会などにおいて発表し、最終的には原著論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。</p>	
授業の進め方	学習目標にしたがって、3年間継続的に研究を行う。文献詳読，ディスカッションを通して1週間毎，1月毎に進行状況を確認・検討し，必要があれば順次，修正を行う。	
テキスト，教材，参考書	<p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説</p>	
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	（奥村伸生） 個別の相談は，事前の連絡（e-mail：nabuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570）によって随時，対応する。	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences
担当教員	太田 浩良
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次 通年 ,不定期
単位数、講義室	6 単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。
授業概要	消化管組織の病理、特にヘリコバクター感染関連胃粘膜病変を中心に、組織・細胞レベルから研究する。 また、消化器外発生をみる胃・腸型腺癌の組織発生と臨床病理学的特徴について研究する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学に求められる情報収集能力、分析能力、高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文としてまとめる。
SBOs（行動目標）	研究テーマに沿って実験計画から実践、結果に対する考察ができ、論文にまとめることができるようになる。
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。
授業の進め方	研究テーマに沿った実験，討論，論文作成を行う。
テキスト，教材，参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果
成績評価の基準	
事前事後学習の内容	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences	
担当教員	齋藤 直人	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。	研究成果を学術論文として世界に発表する。
授業概要	運動生理学・生化学について、分子生物学的手法を用いて広範囲に研究する。また、運動器再建に重要な役割を担う生体材料の開発研究を行う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	研究を实践する過程において、情報収集能力・分析能力・グローバルな情報発信能力を習得する。	
SBOs（行動目標）	教員の研究テーマにそって研究を行うことにより、医療生命科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文としてまとめる。	
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。	
授業の進め方	授業計画にそって、研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。	
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説	
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果	
成績評価の基準	研究に取り組む態度及び研究成果	
事前事後学習の内容	各研究テーマおよび関連する研究領域の教科書、原著論文、総説などで学習する。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時	

登録コード:MA840907		授業科目区分	必修科目
科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences		
担当教員	寺田 信生		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次		通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<small>医学系科学における学識と情報収集能力、分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</small> 従来の実験方法を確実に習得して総合的に活用でき、かつ不足点を見出せるようにする。 <small>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</small> 新しい結果の再現性を確認したうえで、英語論文として発表できるようにする。 <small>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基礎に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</small> 研究が人類の健康に役立つように応用できることを考えるようにする。 <small>保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。</small> 研究したことをひろく知ってもらえるようにわかりやすく伝えられるようにする。 <small>保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための高い臨床研究方法を指導できる。</small> 普遍的な真実を追い求めることができるようにする。		
授業概要	<p>人体など個体の形成は、細胞内蛋白の複合体ネットワークに基づく、という基本的な科学的視点をもつ。</p> <p>この追究のために、 科学的根拠に基づく解析法 問題発案、仮説、実験、結果、考察の手順を、粘り強く繰り返せる研究能力 まとめる能力（国際的に発表）、評価され、さらに を繰り返す力 を、身につけるようにすすめる。</p> <p>中心とする研究テーマは、細胞膜関連蛋白複合体（膜内蛋白、膜骨格蛋白、細胞骨格蛋白）の予定であるが、おもしろそうであれば適時、修正する。</p> <p>* この授業は、人体構造の基本を理解する科学的観点から、男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	生命科学の高度な専門知識と技術を習得する。 情報収集をし、何が新しい知見かを見極めて研究・開発する能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文（英文）としてまとめるグローバルな情報発信能力を身につける。		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> 分子細胞生物学に基づく解析法を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 形態学的解析：光学・電子顕微鏡試料作製、凍結技法など。 遺伝子工学的解析：PCR、遺伝子改変など。 生化学的解析：免疫沈降、GST融合蛋白作製など。 生理学的解析：神経電気生理など。 細胞組織構築について理解する。（1.の手法に基づく） <ol style="list-style-type: none"> 細胞の基本構造：とくに細胞接着とそのシグナル伝達機構。 組織構築：動的解析の方法。 器官構築：形態学的解析。 個体構築：遺伝子改変モデルマウスの解析。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 研究テーマにそって、文献検索および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 自由な発想に基づく課題提起。 過去に誰も行ってないという確認（文献検索と自分の研究の位置づけ）。 現実的な（従来の）解析法による課題解決のための立案～さらに新たな解析法の考案。 計画にそって実験を実施する。 的確、正確な実験手技、方法。行動目標にあげた手技を確実に修得する。 再現性。 種々の方法での検証。 実験結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 図や表を含む結果の提示と、そのまとめ。 考察に基づく、仮説の再検証。 学会発表、英文論文作製による科学者のコミュニケーション。 <p>以上の研究のためのサイクルを繰り返して、研究テーマを発展させる。 （なお具体的な日程については、本人の修得過程や研究の進み方をみながら、適宜段階的に決めていく。）</p>		
授業の進め方	授業計画に示すように、実験の立案、実施と結果のまとめ、考察を繰り返す。		
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 適宜、紹介する。 【参考書・参考資料等】 研究テーマに関連する原著論文および総説		
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> 自ら研究に取り組む態度 研究成果（英文論文） 		
成績評価の基準	研究が自ら遂行できるようになり、英文論文としてまとめられることが評価基準である。		
事前事後学習の内容	研究において、常に結果のフィードバックをかけて学習内容を確認していく。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	生物現象をいろいろな手法を用いて解明してもらいたいです。 このための実験が、手技的にうまくいかなかったり、実験手技はうまくいっても結果が仮説とは異なるなどの繰り返しになりますが、生命の不思議を少しでも科学的に理解しようとする挑戦を続けてみてください。		

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences	
担当教員	日高 宏哉	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。	専門学問分野研究の知識・技能を備え、それらを活用できる。
授業概要	リン脂質およびアポリポ蛋白分子とその代謝産物の脂質代謝や蛋白代謝の調節因子としての機能解析を行い、脂質および蛋白代謝異常症の早期検出法の開発を行う。 機能解析はHPLC分析、質量分析（TOF-MS, LC-MS, GC-MS）、原子吸光分析などの精密分析技術を用い、早期検出法または臨床検査に利用可能な簡易で迅速な分析技術を開発する。 また、分析技術を用いて、臨床的に応用できるかどうかを評価する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	教員の研究テーマにそって研究を行うことにより、健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文としてまとめる。	
SB0s（行動目標）	1) 脂質, アポ蛋白, リポ蛋白の構造, 機能, 代謝を理解し, 説明できる。 2) 精密分析技術の原理を理解し, 基礎的操作ができる。 3) 測定結果の解析ができる。 4) 健康基礎科学における早期検出または臨床検査法に利用できる分析技術の開発ができる。 5) 健康基礎科学または臨床的に応用できるかどうかを評価できる。	
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ, その結果を評価・考察する。 以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表し, 最終的には原著論文としてまとめる。 教員は, 討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。	
授業の進め方	1) 研究方法の打ち合わせと結果評価 2) 学術論文の抄読会	
テキスト, 教材, 参考書	【テキスト】 特になし 【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説	
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果	
成績評価の基準	研究成果を論文としてまとめ, その内容（要旨, 序論, 方法, 結果, 考察）を評価する。 また, プレゼンテーション用としてのスライドを作成し, その内容を評価する。	
事前事後学習の内容	研究計画, 方法, 考察の執筆に必要な情報を収集, 内容を吟味する。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	いつでも相談, 打ち合わせ等ができる。	

登録コード:MA840910		授業科目区分	必修科目
科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences		
担当教員	藤本 圭作		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次		通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>臨床検査学の各種手法による病態解析に関する情報収集力・分析力、研究技術を磨く。</p> <p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>研究成果の英語による論文化と世界に情報発信する方法および技能を修得する。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>医学倫理に則り、最新のエビデンス・情報を集め研究を実践できる能力を習得する。</p> <p>保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。</p> <p>保健医療分野の多様な先端的研究の知識と方法を理解し、自らの研究に活かす。</p> <p>保健医療職者に対して、根拠に基づく実践 (Evidence-based Practice) の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。</p> <p>自らの研究領域において EBP に則り、高度な臨床研究の方法を習得する。</p>		
授業概要	慢性閉塞性肺疾患，気管支喘息，睡眠呼吸障害に関して，その病態と診断解析方法を学ぶ。研究テーマを与え，生体情報の取得，解析，病態の考察およびそれに対する対処法の開発を自らおこない，多くの文献を読み，最先端の知見を得ることが本授業の概要である。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	各教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また，その成果を発表し，博士論文としてまとめる。		
SBOs（行動目標）	<p>与えられたテーマについて，</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．実験あるいは検査をおこなうにあたって，英文を含む論文，文献を読破し，何が解明されていないのかといった背景を明らかにし，これに基づいて研究の目的を明らかにする。 2．この目的を達成するための条件・状況，対象数，方法について計画を立てる。 3．倫理委員会への申請書を提出して承認を得る。 4．被検者に対してきちんと説明し，承諾を得ることができる。 5．実験あるいは検査を自らおこなうことができ，再現性，信頼性が得られる。 6．実験あるいは検査にてデータを取得し，管理，集計および統計学的分析ができる。 7．結果に対して多くの文献を参考にして考察ができる。 8．英文として論文が書ける。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ，その結果を評価・考察する。 <p>以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表し，最終的には原著論文としてまとめる。 教員は，討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。</p>		
授業の進め方	自ら，研究を遂行する過程でアドバイスを与えながら教育する。		
テキスト，教材，参考書	<p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説</p>		
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果		
成績評価の基準	<p>研究テーマに対して，1) 研究計画作成，2) 倫理的配慮，3) 研究実践の段取りと熱意，4) 得られら成績の解釈，5) 過去の報告との文献的考察について，総合的に評価をして，かつ，教員を感動させるレベルにあれば「卓越している」と評価する。 また，1)～5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」，4項目まで出来ていれば「やや上にある」，3項目まで出来ていれば「水準にある」と評価する。 以上の結果を総合して，成績評価を行う。</p>		
事前事後学習の内容	研究は自ら勉強し，おこなう内容であるので事前・事後学習に相当するものはない。		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	指導教員と共に行う研究であり，疑問に思ったり，質問があれば遠慮することなくいつでも質問，相談が可能であるが，まずは自分で勉強して考えることが重要。		

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences	
担当教員	石田 文宏	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	
	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。	
授業概要	血液学領域で、造血異常、血液細胞の腫瘍化や蛋白異常を来す病態を明らかにするための解析法を学び、広く研究する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	各教員の研究テーマに沿って研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文としてまとめる。	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する論文等の理解を通し、情報収集能力を習得する。 研究計画の立案、実施、結果の解析を繰り返すことで、分析能力を向上させる。 学会発表や英語論文の作成を通して、グローバルな情報発信能力を習得する。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究テーマにそって関連文献調査および予備実験を踏まえて実験計画をたてる。 2) 計画にそって実験を実施する。 3) 実験結果や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 <p>以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会などで発表し、最終的には原著論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法に関する助言等を通して研究推進をサポートする。</p>	
授業の進め方	実験や調査の立案、実施、考察を繰り返して行い、定期的な討議にて進行状況の確認し、継続的に進める。	
テキスト、教材、参考書	各研究テーマに関連する研究論文、総説	
成績評価の方法	研究に取り組む態度と研究成果	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、相談には、随時対応。	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences	
担当教員	長野 則之	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	感染症におけるヒトと宿主の相互関係、診断・治療に必要とされる知識を深める。
	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。	診断治療のための分子生物学的研究を遂行できる。
授業概要	感染症の根幹をなす宿主・寄生体関係の概念に基づいた臨床実践に有益な研究を遂行する。世界的拡散が懸念される薬剤耐性菌について、耐性機構の研究ならびに医療関連感染防止に関する研究を通じて分子生物学的アプローチを学ぶ。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	感染症学 / 臨床微生物学に関するテーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文としてまとめる。	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨牀に貢献できる研究を自ら立案し、計画を立て効率よく遂行することができる。 ・ 研究内容及び研究成果をわかりやすくプレゼンテーションできる能力を養う。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 <p>以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。</p>	
授業の進め方	研究の進展状況について随時報告を受け、今後の進め方について討議する。	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説</p>	
成績評価の方法	研究に取り組む姿勢及び研究成果	
成績評価の基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究の目的を理解し、研究計画を自ら組み立てられる。 2) 正確かつ緻密な研究の遂行ができる。 3) 研究成果を学会発表できる。 4) 研究成果の英文論文を作成できる。 	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応		

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences	
担当教員	小穴 こそ枝	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	
	保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。	
授業概要	現在、世界的に問題となっている薬剤耐性菌について、医療関連感染防止に関する研究を通じて分子生物学的アプローチを学ぶ。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	感染症学・臨床微生物学に関するテーマについて研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文としてまとめる。	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する文献をはじめとする関連情報の情報収集能力を習得する。 研究計画の立案、実施、結果の分析・評価する能力を習得する。 研究成果を英文論文として情報発信する能力を習得する。 	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて研究計画を立てる。 2) 計画にそって実験を行う。 3) 実験結果や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。 <p>以上のような研究サイクルを繰り返すことで、研究を発展させる。 その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。</p>	
授業の進め方	実験や調査の立案、実施、考察を繰り返して行い、定期的な討議にて進行状況を確認し、継続的に進める。	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説</p>	
成績評価の方法	研究への取り組む態度および研究成果	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、対応します。	

科目名	医療生命科学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Health and Medical Sciences	
担当教員	青木 薫	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	医療生命科学領域 / 1 ~ 3 年次	通年
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	研究成果を学術論文として世界に発表する。
授業概要	運動生理学・生化学について、分子生物学的手法を用いて広範囲に研究する。また、運動器再建に重要な役割を担う生体材料の開発研究を行う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	研究を実践する過程において、情報収集能力・分析能力・グローバルな情報発信能力を習得する。	
SBOs（行動目標）	教員の研究テーマにそって研究を行うことにより、医療生命科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また、その成果を発表し、博士論文としてまとめる。	
授業計画	<p>1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。</p> <p>以上のような研究サイクルによって、研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表し、最終的には原著論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。</p>	
授業の進め方		
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 特になし</p> <p>【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説</p>	
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果	
成績評価の基準	研究に取り組む態度及び研究成果により評価する。	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	定期的な研究の進捗状況に関するミーティングを行う。 質問、相談はその際に受け付けるが、必要があれば適宜、対応する。	